奇蹟詳論

三並良訳

68
61

020360-000-2

68-61

奇蹟詳論

シュミーデル／著

M24

ABI-0167

№ 1648/XXIV

The Miracle in its
Relation to Religion and Science.

# 奇蹟詳論全

シュミーデル著
三並良譯

基督降生千八百九十一年

欠

MISSING

本書緒言あり更に序言を要せず、然れとも余をして一言を附せしめんか、本書ハシュミーデル氏が嘗て獨逸國に於て神學者會の爲めに講演せし所のものを改刪增補したるものにして本書が飜譯せられ福音叢書として出版せらるべき約ありしは、已に年餘前のことなりしも、遂に漸く今日發行せらるゝことを得たり、本書本と眞理を愛し之れを考究するに成れり、余亦た此の意を以て之れを譯す。今刻成りて讀者の手に渡らんとす讀者も亦た眞理を愛するの心を以て此の書を繙き、考究評論せられんことを希望す。

月日

譯者識



# 參考書目

此の書を著述するに當り余が嘗て參考せし書籍を悉く掲くるとは紙面に限りあるを以てあさず以下僅かに其の中著明にして且つ我東京傳道會文庫に現在せるもの而已を記す＊印あるものは英譯せられたる書と知るべし

## 第一　比較宗教學に屬する書


*Tiele, Compendium der Religionsgeschichte, deutsch von Weber 2. Aufl. Berlin 1887.

Chantepie de la Saussaye, Lehrbuch des Religionsgeschichte, Freiburg i B. I 1887 II 1889.

*Max Mueller, Essays I Beitraege zur vergleichenden Religionswissenschaft 2. Aufl. Leipzig 1879.

*Max Mueller, Vorlesungen über den Ursprung und die Entwickelung der Religion, Strassburg 1880.

*Kuenen, Volksreligion und Weltreligion 5. Hibbertvorlesungen, Berlin 1883.

*Barth, religions de l'Inde Paris 1879.

*Oldenberg, Buddha, sein Leben, seine Lehre, seine Gemeinde, Berlin 1881.

Seydel, das Evangelium von Jesus in seinen Verhaeltnissen zu Buddhasage und Buddhalehre, Leipzig 1882.

Rhys Davids, Buddhism, London 1886.

Kern, der Buddhismus, deutsch von Jacobi, Leipzig I 1882 II 1884.

Gloatz, speculative Theologie in Verbindung mit Religions geschichte I, Gotha 1883.

Peschel, Voelkerkunde, 6. Aufl. von Kirchhoff, Leipzig 1885.

## 第二　宗教哲學、教義史、教義學に屬する書

*Pfleiderer, Religionsphilosophie auf geschichtlicher. Grundlage, Berlin 2. Aufl. I 1883 II 1884.

*Pünjer, Geschichte der christlichen Religionsphilosophie seit der Reformation I 1880 II 1883.

Harnack, Dogmengeschichte I, Freiburg i B 1886.

Schleiermacher, der christliche Glaube, 5. Aufl. Berlin 1861.

Biedermann, christliche Dogmatik 2. Aufl. Berlin 1884.

Hase, Gnosis 2 Baende, Leipzig 1869-70.

Lipsius, Lehrbuch der evangelisch-protestantischen Dogmatik 2. Aufl. Braunschweig 1879.

Alexander Schweizer, die christliche Glaubenslehre nach protestantischen Grundsaetzen 2 Baende, Leipzig 1877

Schultz, die Lehre von der Gottheit Christi, Gotha 1881.

Luthardt, Compendium der Dogmatik 5. Aufl. Leipzig 1878.

Hofmann, der Schriftbeweis 3 Baende, Nœrdlingen 1852-55.



Martensen, die christliche Dogmatik, aus dem Daenischen Kiel 1853.

Parker, Matters pertaining to religion.

Redford, the christians plea against modern unbelief London 1887.

## 第三　舊新約書學に屬する書

Dillmann, die Genesis 5. Aufl. Leipzig 1886.

*Wellhausen, Prolegomena zur Geschichte Israels 3. Aufl. Berlin 1886.

Reuss, die Geschichte der heiligen Schriften alten Testaments, Braunschweig 1887.

W. Robertson Smith, the prophets of Israel, Edinburgh 1882.

Schultz, alttestamentliche Theologie 3. Aufl. Goettingen 1885.

Weiss, das Markusevangelium, Berlin 1872.

Weiss, das Matthaeusevangelium und seine Lukasparallelen Halle 1876.

Handcommentar zum neuen Testament, herausgegeben von Holtzmann, Lipsius, Schmiedel und von Soden besonders, Holtzmann, Synoptiker und Johannes evangelium, Freiburg 1889 u. 90.

Carpenter, the first three gospels, their origin and relations London 1890.

Brückner, Evangelium und Briefe Johannis, Leipzig 1863.
Thoma, die Genesis des Johannes evangeliums, Berlin 1882.
Holsten, zum Evangelium des Paulus und Petrus, Rostock 1868.
Holsten, die drei urspruenglichen Evangelien, Karlsruhe und Leipzig 1883.
*Hausrath, neutestamentliche Zeitgeschichte 4 Baende Muenchen 1874 ff.
Schuerer, Geschichte des juedischen Volkes im Zeitalter Jesu, II Leipzig 1886.
Weizsaecker, das apostolische Zeitalter, Freiburg 1886.
Pfleiderer, das Urchristenthum, Berlin 1887.
Strauss, Leben Jesu 2 Baende 1835-36.
*Keim, Geschichte Jesu von Nazara 3 Baende, Zûrich 1867-72.
Hase, Geschichte Jesu, Leipzig 1876.
*Renan, vie de Jesus 6. Aufl. Paris 1863.
*Schenkel, Charakterbild Jesu 2. Aufl. Wiesbaden 1864.
Farrar, the early days of Christianity 2 vol. London. 1882.
Davidson, introduction to the study of the New Testament 2 vol. London 1882.



## 奇蹟詳論目錄

緒論　十一
第一篇　宗教と奇蹟信仰との關係　十二
第一章　宗教の歴史的發達(啓示)と宗教の本體　十三
第二章　奇蹟信仰の歴史的發達　二十三
第三章　奇蹟信仰を宗教上より評論す　三十三
第二篇　奇蹟信仰と學理との關係　三十九
第一章　原理的の評論及ひ其の論極　四十
第二章　歴史的の評論　四十八
第三篇　大論結　五十九

# 奇蹟詳論

シュミーデル著
三並良譯

## 緒論

聖書の「インスピレーション」説に關する必要ある宗教的及び教義的の議論は吾人嘗て「眞理」に於て世の論者と共に講究したりしが、此の問題たる先づ關係的に公論の歸着する所を見たりと謂て不可なかるべし、然れども奇蹟に關する世論は尙ほ未だ躊々然として歸着する所なく、奇蹟論を著はす者亦許多ありと雖も之を詳論せし者は猶未だあらざりしが如し、是れ余が此著ある所以なり。夫れ奇蹟のとたる一大問題なるを以て余は世論が一般に此問題を熱心正意に講究すると猶ほ「インスピレーション」問題に於けるが如くあることを切望せずんばあらず。蓋し奇蹟の問題たる單に宗教的の興味の故を以て講究すべきの問題にあらずして又た普通一般に講究すべき必用あるものなり、唯に宣教師、教法師のみの研究すべき問題にあらずして、醫學者、科學

者、歴史家、哲學家の如きものも亦皆な奇蹟なる者い果してあり得べき者あるや、否やを明らかにし、各其學說なかるべからず。加之余は奇蹟を論ずるに當り近來漸く起り來りし論法を用ひ、唯だ區々たる一の宗教の奇蹟に就きて論ずるとをなさず、一般宗教の奇蹟を普く論ぜんと欲す。換言すれは聖書中の奇蹟のみに限らず、一般宗教歴史の奇蹟信仰をも併せて評論し、且つ唯だ神學上の辨論のみならず、哲學、科學、歴史學に基き以て奇蹟を評論せんと欲す、是れ特に余の議論が江湖の注意を喚起せんとを切望する所以なり。

## 第一篇

### 宗教と奇蹟信仰との關係

抑も奇蹟信仰は主として宗教上の現像にして世人の知れる宗教には普通此の信仰あり、故に吾人は先づ宗教内の奇蹟なる一個の現像と宗教なる現像（即ち宗教全體）と及び宗教の本体とを比較して之を觀察せざるべからず。

宗教の本体の如何なる者なるやを研究して、誤まらざらんと欲せは、吾人は先づ當に



基督教のみならず總て著明なる世界の宗教の發達を明かに知らざるべからず、而して其一般を貫徹したる發達の動機（モチーフ）と、其の究極の目的の何たるやを發見せば、吾人は之を宗教内の錯雜にして、個々別々なる現像に對し、名づけて宗教の本体或は宗教の原理とおすべし。斯くして得たる宗教の本体を標準とし、以て各個の宗教と、宗教内各個の現像との宗教的價値を量一量せんとす、是れ即ち宗教と、其の現像とを評論するに正當の道なり。故に奇蹟信仰の價値如何に至りても亦た宗教の本体如何に依りて秤量せられざるを得ず。

## 第一章　宗教の歴史的發達(啓示)と宗教の本體

吾人若し宗教の發達と其の本體とを研究せんと欲せば、宜しく先づ通俗偏狹なる思想と、各宗教の固執派が常に陷る所の一大誤謬、即ち自己の宗教を以て唯一眞正にして最上なる宗教となし、他の宗教を以て悉く邪道の宗教とおすの誤謬、換言すれば自己の宗教は神の啓示に基けども、他の宗教は悉く迷信に基くものありとなすの誤謬を避けざるべからず。是れ又た一國民が鎖國的の傲慢心を以て、自國は完全無缺なる文

明國あれども他い悉く蠻夷國なりと爲すと敢て差違ある所なし、然れども各國民も
と皆等しく人間たり、彼等皆類を同くす、其の異なる所は文明發達の度の高下にある
耳、宗教に至りても亦然りもと皆其の類を等うす、等しく是皆宗教なり、敬神なり、
而して其の互に相異る所以の者は唯其の發達度を等うせざるにある耳、豈に唯だ一
宗教のみ神の啓示に基き、他の宗教は悉く迷信に基するものならんや、夫各宗教は皆
神の啓示に基せしものなり。夫の自然崇拜者が旭日を仰ぎ電光を望では之を拜し、ゲ
ルマン人が靈樹の颯々たるを聞きては伏して之を拜し、希臘人がデルフィの巫言を以
て神託となし、回々教者が「コーラン」を讀誦し、佛教徒が佛前にて經文を奉讀し、基
督教徒が良心の聲に耳を欹つるが如き、皆各其の信徒の爲には神の啓示にして、唯だ
啓示の分明あると、純粹あるとに於て其の度を異にするのみ。思ふに公平なる學理は
宗教を觀察する事斯くあらざる可らずと雖も、此の眞理は埋沒せられて長く發見せ
られざりしが、碩學レッシング氏出るに及び始めて此の眞理の唱道せらるゝことを得た
り、氏は天啓を稱して「人類の教育」"Erziehung des Menschengeschlechts" と云へ



り、其意たるや恰も慈父が其兒子を教育するに當りて其の子の智力の增進するに從
て、眞理を教ふるにも亦た益〻高尚深遠に進むが如く神も亦全人類を教育するに當
りて漸次に進て高尚圓滿に其の本体を啓示すと云ふにあり、即ち人其兒童の時に當
りては先づ唯だ一個の自然体(ナツールウエーゼン)あれども、漸次發育して靈性(ガイスツウエーゼン)の者と成るが如く、
諸種の宗教は是れ自然より發達して漸次靈性となるの階段を形成するものと云ふて
不可なかるべし、故に宗教中には最下級にありて進むとあく、從て神の啓示の最小量
を有する者あり、或い自然の環鎖を全然破毀し去りて、純然たる靈性の者とあり、神
の啓示を人力の及ぶ限り最も高尚に最も圓滿に備ふるものあり、而して其最下級と
最上級のものとの間には多數の階級ありて存す。吾人若し諸宗教の發達を明らかに
せんと欲せば、神なる觀念に就て之れを考究するを適當とす、如何となれは神は始め
より高尚純正の靈体なりと觀念せられたるものにあらすして、此觀念に達するにい
漸次の發達を經過し來りたるものなればあり、而して吾人は之れを觀察するに當り、
其の觀念の漸次精神的に發達するに際し、人民の各族皆同一定の發達を爲すとなく

して、學識に富む者の間にハ高尚あるの觀念速に發達し、學識に乏しき者の間にありてハ其進歩の遲きを見るべし。然れとも之れ決して驚くべきことに非ず、是れ彼の高等の宗教中にも昔日の遺物今尚ほ存し、或は昔日に眞信たりし所の者も漸々今日の目には妄信と轉變する所以なり、獨逸國に就て之を考ふるに、農民其の他無識の衆民中には惡靈、巫女、幽靈、林神等の如き甚だ迷信的の想像今も尚ほ存せり、是れ古代偶像教徒たりし時の遺物のみ。佛教中に漸次無數の印度、支那、日本の多神教の觀念駢入し、高尚有識の佛教徒は此等を目して妄信となすが如きに至りても亦同一の事なりとす。

宗教の最下級にある者を擧くれは、即ち黑人、ヲーストラリヤ人、亞米利加土人等の如き蠻民の信奉せる、所謂靈魂教(アニミスムース)是れなり、靈魂教は宇宙間の萬物を以て皆生活する者とおし、万生活物中には各其靈あり、鬼ありて寄住し、靈と鬼とは人類の崇拜せざる可らざる所の者なりとの觀念を有す。而して其の信者は此等の鬼神は皆おの禍害をおす者と信ずるを以て、靈魂教は恰も恐怖を以て其本旨となすか如し、又た諸靈は個人(ソン)なりとは此の宗教の未だ考へざる所にして、諸靈は定形なき幽靈の如き勢力なりと信せり、人或は此の宗教を稱して多鬼神教(ポリデモニスムース)と云ふ是れ多くの鬼神を信奉するが故なり。



多鬼神教を超越する一等の宗教之を多神教(ポリテイスムース)とおす、多神教の見解を以てすれば、諸神は各獨立の個人的本体ある者にして、人間に勝り、人間的の長所を有す然れども亦た人間的の欲情あり、且つ短所ある者とせり。其の觀念によれば神は我儘の者にして、只自然力を個人としたる者に過ぎずして又自然の如く變意定りおきものありとなす。之より發達して道德的の宗教に至る迄には、蓋し漸次の進歩を要し又た幾多の歲月を費せり。

宗教的發達に於て多神教の一歩を進めたる者ハ多神を以て組成せらるゝ國ありとの觀念是なり、昔日に於ては地方を限りて其の地に據居すと思意せられ、且つ其の地方に限りて尊拜せられたるの諸神相合し、而して最高の神は其意志により規律を以て諸神を支配統御すと爲すもの即ち是なり、吾人此の組織を稱して多神專政國と云ふ

て可ならん。要するに此の種の觀念は神を以て規律と道德の權力、一國一家の保護者、不義不正に關する事の裁判官となす、而してゲルマン、古ペルシヤ、古印度の宗教の如きは未た此の域に進みし者と云ふを得ずして此の思想の大に發達せしは希臘の宗教及び羅馬、支那、日本の如き、皇帝を以て神とし崇拜する宗教、換言すれば地上の支配者は天上の支配者の像にして、神として崇拜せらるべきものなりとなす宗教の行ハるゝ所なり。

是れを歷史に考ふるに、多神專政國の觀念よりして二個の異ある宗教相共に發達せり。其の一を凡神教とあす、凡神教とは諸神の君主は宇宙に普く遍漏せる非個人的の原理なりとあすものにして、「ブラマ」教、佛教の如き、埃及の若干の宗派、希臘に於ける新「プラトー」派の宗教哲學の如き皆此に屬す、然り而して凡神教的宗教は學識ある者の中には最早宗教にあらずして一の哲學となり、愚民の間には野鄙ある偶像崇拜教となり了るべし、是れ吾人が埃及及び印度の宗教に就きて明らかに經驗する所なり。



第二の發達は唯一神教にして、多神中の主神が終に惟一の神と崇拜せらるゝに至りし者なり、素より斯く發達して唯一神教となりたるものなりと雖も、亦た其の中に幾分の多神教の遺物を存するを以て常とす。ブラマ教も埃及の宗教も「ツオロアステル」教も希臘、羅馬に於ける敬神の詩人、或は哲學者例之ばエシロス、ソフオクレス、ソクラテス、プルタルヒ、チチセロ、セチカの如き皆あ大に唯一神教に接近したるの點ありとなす、然れども其の眞に發達して唯一神教に達したるものハ實に猶太教と、其れより出でたる基督教及ひ回々教あるのみ。

雖然猶太の宗教の唯一神教と發達せし過程に至りては、以上論じたる「インドゲルマン」人種の宗教と大に其の趣を異にしたりと云はさる可らず。彼の「セミチック」人の宗教は概して禮拜の目的物に富まず、其の一派なる「イスラエル」宗教中に於ても亦家の守護神テラフィムの崇拜の如き多神教の遺物多少ありたりとは雖も（創世記卅一章十九、廿、ホゼア十二章四）「インドゲルマン」人の宗教に比すれは崇拜せらるゝ材料甚だ乏し、故に「セミチック」人の宗教は忽ち變化して拜一神教 Henotheismus と

なりたり。拜一神教とは各國民、各〻自國の守護神一を有し、其の國民皆其の一守護神を崇拜すとの觀念に基ける宗教なり。故にヤベー神の如きも多神中の一神たるに過ぎずして(出埃及記十五章十一)フィリステヤ人には其の神ダゴンあり。モアブ人には其の神カモンあり。アッシリア人には其の神アッスルあり。イスラエル人には其神ヤベーありと思意したるなり(士師記十一章十四)。之れを以てヤベー神は初はイスラエルの神にして、唯だイスラエル人とイスラエル國即ちカナアン國のみを守護し之れを支配すと雖も一旦カナアン國を去る者は誰れにてもヤベー神に事へ、且つ其保護を受くると能はずと觀念し(サムエル前書廿六章十九)、イスラエルの讐敵は又た同時にヤベー神の讐敵にして、其の正義の如きも亦た唯たイスラエル人に對してのみ行はるゝものとせり、是れ預言者以前のイスラエルに於ける普通の宗教的觀念なりとす。

抑もイスラエルの國教をして高尚ならしめしはアモス、エザヤ、ミカ、エレミヤの如き預言者與かりて大に力ありしものなり、彼等は預言者と呼はるゝと雖も決して賣



ト者の如く未來を預言せし者に非すして實に人民の宗教道德の教師たりし者あり。而して宗教發達中の此の階級、即ち唯一神教が正に純清道德的の方向に進歩しつゝあるの時に當りてゝ、ヤベー神ゝ其の撰擇したるイスラエル人民の救濟神たるのみあらず又た世界万民の君主にして、異邦の群神は皆な之に比するに足さるものと觀察せられたり。加之イスラエル人の唯一神教か斯く迄高度に發達せしに際してヤベー神は万國の神なりとの思想を生じ此の思想は遂に新信徒 Proselyten ある實際的思想をも喚起せり、「プロゼリーテン」主義とは異邦の万民東より西より南より北より悉くイスラエルを中央となして此處に參集ー「ヤベー」宗教に歸依すべしとの思想を云ふあり(イザヤ書二章二より四、ミカ書四章一より四)

猶太人は囚虜の難に遇ふて其の辛酸其の詬辱を嘗めしより以後、常に外國政府の壓制と束縛の下に立ちしが爲めに心大に忿怒し、終に預言者流の世界主義を放擲して再び神に關する觀念を偏小狹隘ならしめ鎖國的の主義に歸り、神は猶太人の嫌惡せる異邦人に對してゝ万我意と殘忍を逞しくすと說くに至りたり。故に猶太人の神に

關する觀念は鎖國的に流れ神は其万能に由り專政を施すものとせしあり、(鎖國主義と万能的專政主義は後ち同々教の執る所となりて更に甚たしき極端に走り其の宗教い世界的宗教と名稱すべからざるものなり)

基督教は實に猶太の唯一神教より發達し來りたるものにして能く猶太教の缺點を鋤去し得たる者と云ふべし夫れ耶蘇は神と人間との宗教的關係を以て、恰も父と子との關係に等しとあすが故に、異邦人はヤベー神の專横なる支配を受け、神の愛は其民イスラエルの專有なりとなすか如き鎖國的狹隘なる思想は遂に神の慈愛は万國民に優渥にして各個人皆な悉く其の恩澤に沐浴するを得べし、とあすの基督教主義の爲めに擯斥され削除せられたり。要するに基督教は純粹なる內界の宗教即ち心の宗教あれは鎖國的妄想、儀文及ひ自然崇拜教より傳來せる犧牲と儀式とを悉く破碎し去りて全く精神的宗教となりたるあり、夫れ神は靈あり、神は愛ありとは基督教の大要旨とす、是れ宗教發達の最高度に達したるものと云はすして何ろや。換言すれは神の啓示は基督によりて最も高尙、純正に世界に顯はされたるものにして此れ又た人間



に思考し得らるゝ限りの最高度に到達したるの啓示なり。何を以てか之を知る、曰く神に關する觀念は其の靈あり愛なりと云ふよりも他に高等ある觀念は誰れも爲し得べからざればあり、況んや此觀念たる宗教上よりすれい最も深邃に、哲學上よりすれは最も眞正にして宗教の眞想と其の最大目的とを得たるものなるに於てをや。故に若し人、基督教中の宗教的現象及ひ其の教義を評論檢定せんと欲せは此の最高ある觀念を以て標準とあさゞる可らず、而して若し此標準に合せざるものあらば是れ尙は未だ基督教の主義に合せざるもの、或は已に陳腐に屬せる者たらざるを得ず、是故に吾人が奇蹟信仰を評論し其の眞僞何如を講究するに於ても亦た此の標準に從ふを要するあり。彼の奇蹟信仰なる者は果して古今に通して一の變化する所あかりしや、と問はゞ其實決して然らざるなり宗教が時代の變遷と共に發達したるが如く、奇蹟信仰も亦自ら發達したる而已あらず、又共に宗教の發達と必す相併行せるを見るあり。今や吾人は一歩を進めて奇蹟信仰の發達如何を研究せんと欲す。

## 第二章　奇蹟信仰の歷史的發達

吾人が今日知れる宗教は其の何宗教たるを問はず皆奇蹟を信仰す、詳言せば宗教的人間は皆な奇異、怪訝、人をして喫驚愕如たらしむる事蹟あれば直ちに以て神靈の直接なる大能なりとせざるはなし。

吾人が知れる宗教にして、不文人民の信奉せる最下級の宗教即ち多鬼神教は其の全体殆んと魔術信仰を以て成り、魔術僧の助力に依りて鬼神の禍害を避除し、或は其の力を利用せんことを務む、而して魔術僧なる者は多く甚だしき虚欺者にして、其人民を蠱惑し、人民中に勢力ある甚だ大なり。

文明國の人民にして多神教を信奉する者亦た奇蹟を信仰して毫も怪む所なし、特に彼等の觀念を以てすれば神は其の奇蹟力を用ひて其利己的の目的を達するの具となすと、例せば神い其の奇蹟を行ふの能力により其寵愛する者を加護すとなすが如き是れなり。ホメール詩中トロヤーの戰爭に際しヘラ神は姦計と勢力とを用ひて其の敵トロヤー人を害し、アフロジテー神い全力を擧げてトロヤー人を守護するとを記するも同じ觀念に基くものなり。尚ほ甚だしきに至りては諸神各其の奇蹟力を用ひて互に相爭鬪すと信じ、或は偶然にもせよ一旦神を見し者は必ず大罰を受く可しとなす。實に此れ等の觀念ある宗教にありては諸神の爲す奇蹟は悉く我意的奇蹟ありと云ふも不可なかるべし。



宗教思想發達し道德思念も亦高尚となり、專政君主的に組織せられたる群神國の觀念ある宗教に至りてい、群神の自然界と人間界に干渉するは皆な社會（家族組合國）の秩序を維持し、諸神の設置せし道德上の規律を保護せんが爲めの目的に出づとなす。彼の希臘人がデメーテルを農業の守護神と崇め、ヂヲニゾスを以て葡萄の守護神となし、アテーテを以て都會の神、ヘラを以て夫婦の神、アポロを以て眞理と法律の守護神と尊崇し、不義を爲す者は悉く其刑罰に遭ふとなすが如し。

以上三階級の宗教中に顯現し來る所のものは、多少其の服裝を異にすとは雖も、亦た屢〻舊約聖書の宗教中に現はるゝを見るなり。今少しく之を述べん。

多神教的の神託、魔術の跟跡は、吾人之を又舊約書中に認むを得べし。ヘンドールの口寄者が死したるサムエルの靈を招きしと云ふが如き（サムエル前書廿八章）、ウリン

とツミムが神宣を承んことを願ひしが如き、（サムエル前書廿八章六出埃及記卅二章八利未記八章八民數紀畧廿七章廿一）皆其の類あり。思ふに當時の人にして若しヤベー神の託宣を得んと欲せば祭司之れん爲に籤籤を抽きしものならん。其の他エフオドあるものあり「エフオド」とは――少おくともバビロンの囚虜以前已に存せしものにして――全身金銀を以て被ふたるヤベー神の像なり、（士師記八章廿七節サムエル前書十四章）人之れに依りて亦神託を得ると信じたり、又たサウル其の迷ひし羊をサムエルに問ひしとも（サムエル前書九章一節より十章六節）蛇に變形したるモーゼの杖の事も（出埃及記七章八以下）皆多神教偶像教と共に行わるゝ神託或は魔術の事と相去ること遠きにあらずと云ふ可し。

奇蹟信仰の第二階級なる、神は專恣に奇蹟を行ふ、と爲すの觀念も亦た舊約聖書中にこれあるを見る、例之は彼のヤベー神が忿怒に乘じて、彼の純良の心よりして將に轉倒せんとしたる神櫃を扶へしウザを擊ちしが如き（サムエル後書六章六）、ロートの妻が鹽の柱と變せしが如き（創世記十九章廿六節）、總てヤベー神を見る者は立



處に其の罰を蒙るといふが如きあり一方に於ては之に反して其道德上の性質より論すれは瑕瑾多き者もヤベー神の恩寵を得たる者は常に其の愛憐を蒙るか如き（創世記廿七章十以下卅章廿七以下卅一章三節七節以下廿四章四十二節のヤコブに於ける士師記十五章十六章に記せる不道德にして粗暴なる所業あるシムソンに於ける）皆專恣的奇蹟信仰の觀念より出でたるものなり。然りと雖も第二階級の奇蹟は舊約聖書宗教が發達するに從ひ漸々其跡を斷ちて第三階級の奇蹟即ち救濟奇跡獨り勢力を占むるに至れり救濟奇跡とはヤベー神が万民の中より撰擇せしイスラエル人民をして歷史中に救濟の道を得せしむるか爲めに行ひし奇蹟を云ふイスラエルの出埃及（出埃記十二十三章）、紅海を通過する事（仝十四十五章）カナンの掠略、悔改の時を經過して後四虜より古國に歸るを得たること、晩世に至れば救世主國の建設せらるゝ事の如き奇蹟即ち其目的の凡て救濟的あるものの是れなり。然り而して奇蹟を如此救濟歷史的に觀察するは啻に舊約聖書にあるのみならず新約聖書中にも亦た之れあり。新約聖書に載錄せられたる奇蹟n殆ど皆な救世主耶蘇に關する所のものにして或は

耶蘇の身に關してなされたる奇蹟あり、或は耶蘇の自ら爲せし奇蹟あり、而して耶蘇の自ら爲せし奇蹟は生活なき物にも(給食奇蹟、波濤靜止、海上步行、水を變して葡萄酒とおす事)或生活ある物にも及び(惡鬼に憑かれたる人、病人の醫療、及び甚だしきに至りてゝ死人をして蘇生せしむる事)皆な救世主の人愛を證するか、然らされば耶蘇の救世主たる權威を證明するものにあらざるはなし、其の耶蘇の身に關して、なされたる奇蹟(變貌、磔殺せらるゝ時の奇蹟、復活、誕生)の如きに至りては皆な救世主の神たるを頌揚したるものあり。

聖書の記錄ゝ耶蘇の弟子等も亦た耶蘇より授與せられたる力によりて、奇蹟を行ふの能力ありたるものなりとし、(四福音書及び使徒行傳)保羅の如きは奇蹟を行ふの力を以て基督の靈により敎會に授けられたる特別の賜なりとせり、(哥林多前書十二章)。而して唯に耶蘇及び其弟子のみならず其の他の宗祖マホメット、ツヲロアステル、佛陀の如きも皆な無數の奇蹟を行へりと信ずる者あるゝ世人の普く知る所也、吾人佛陀の福音書を繙けば其の記する所の奇蹟談、山の如くして數ふるに暇あらず(例



令ば神童遊戯經の如し)、然れとも此の奇蹟たるや甚だ虛搆妄誕に屬し、其の過半は極めて無味のものなり、此の如き奇蹟は基督敎の文籍中には甚た稀有にして敎會より異端書(アポクリーフ)として斥けられたる書中にのみ多く存し新約書中には無果花の呪詛(馬可五章一より廿)、魚口中の金(馬太十七章廿七)、生誕談の二三の記事(例令ゝ路可一章廿六……三十四、四十四)の如き僅かに此の種の階級に屬する奇蹟談ある而已、其の他新約書中に記載せられたる奇蹟談に至りては其體裁目的の簡明にして、宗敎的の品位ある他書の決して及ぶ所にあらざるあり。

一朝基督敎が希臘世界に駸入するに至りてや、此の世界亦た奇蹟信仰の行はるゝありしを以て基督敎の奇蹟信仰は布敎の障害となることなかりしのみあらず、却て奇蹟は宗敎に欠く可らざる者あるを以て基督敎も亦た之を說くも至當のことなりと思惟せられたり。然れども基督敎會が異敎の哲學と相爭ふに至りては其の信條を學問上より辨證せさる可らざるの必要起り、爲めに奇蹟信仰も亦希臘の哲學より來りたる、自然には一定不動の法則ありとの主義と相論ぜざるを得ざるに至りたり、爰

に至りて奇蹟は神直接に其の專恣の働によりて規律ある自然の運行を破りたるものとするか然らざれは更に高等なる自然の秩序は現行の自然秩序を破りたる者なりとせらるゝに至り奇蹟信仰は初め頑是なき感情より發したる者なりしも遂に辨理的のものと變じ辨理的奇蹟信仰即ち奇蹟主義は聖書中の奇蹟幷に教會中に常に現出する奇蹟の解譯に用ひらるゝに至れり

抑も教會に信せらるゝ奇蹟に二種類あり其一を通俗的のものとす、是れ人の俗想に生せし者にして人民の信仰を置ける殉教者、聖人の傳說を裝飾せるものなり、此の類の奇蹟多くは荒唐不稽忘像極りなきものなり。他の一種に至りては是れ學說的の性質を帶ぶる者にして或は啓示せられたる道の神性なることを確定辨證せんと欲するより起り（インスピレーション說）、或ハ啓示の中保者基督の神性を證明するより生ず（神人兩性說三位一体論）、又た更らに教會と僧侶の權威を强大ならしむるが爲めに用ひられたる者あり（晩餐式物質變化論。幷に其の他聖式論マリア神母說。マリアの原罪なき胚胎。教會、教法大會、法王の不可誤說）吾人此等を名けて教義的奇蹟と稱す、而



して此れ等超自然教會的の信仰は必ずしも古來より確乎不拔にして他より批難攻擊を受けし所なしと云ふべからず、ドミニカーチル派は教會の利益を計りてマリアの原罪なき胚胎を排擊し、古カトリック教（Altkatholicismus）ハ宗教心と教會の利益を計りて法皇不可誤說を論駁し、伊國の人愛主義（フマニスムース）は智識を重ずるの點よりして教會的奇蹟信仰を罵詈し、且つ嚴正なる自然の概念を固持して聖書と教會教義的奇蹟とを論難したり、而して宗教革命はカトリック主義の教會論を擯斥せしと共に教會的奇蹟をも亦た排斥したりしが聖書の「インスピレーション」說を固持するが爲めに聖書中の奇蹟ハ之を固持せり（「インスピレーション」說は素と魔術的の者にして亦た一種の奇蹟論たることを思はざりしなり）吾人此の奇蹟信仰を名けて歷史的奇蹟主義と稱す。而して宗教革命以來其の二教會（ルーテル教會、改正教會）は其の執りて以て聖書に礎けりとなす所の基督の神人兩性論及び三位一躰論なる教義的奇蹟をも固執し、之れを固執することを以て其の教會が普及的基督教の性質を有するの證となせり。ルーテル教會の如きは基督の自ら創搬したりとなす洗禮、晩餐の聖典は不思議の靈驗あ

ることをも固持せり。然るにスピノザ氏、文華學派は「ルーテル」教會と改正教會の固執主義に反對して奇蹟のあり得べからざることを論せり、文華學派とは英國の自然神教 Deismus佛國の唯理論Naturalismus獨逸の合理論 Rationalismus を云ふあり之れに反してライプニッツ氏と其の後に起りたる超理學派Supranaturalistische Richtungの哲學と神學は合理論に一歩を讓る所ありしとは雖も奇蹟のあり得へきものあることを論したり而して奇蹟論に關する方今の狀勢如何を約言すれは大略左の如し

第一　哲學と科學とは原理上より奇蹟を否定す。

第二　自由主義評論的辨理的神學 Die freisinnige kritisch-speculative Theologie は奇蹟を以て神の專恣の働とせば宗教上の神なる義と矛盾し、又た自然の連續の破壞とせは學理によりて認識したる世界ある義と相背弛するものとなす。

第三　調和派神學 Vermittlungstheologie の一派は自然の法則なる者は人智の得て認識する能はざる所にして、道德宗教社會は自然の法則と毫も關係する所有るとなしと說き、奇蹟の問題は學說によりて斷定せらるへき者にあらすとなす。



第四　輓今の固執派――及ひ調和派神學の過半――は祈禱の功力を說かん爲に神は自然の運行中に干涉を爲すと主張し、且つ聖書の教權を基となして聖書中の奇蹟を固持す。

第五　新教及ひ特に舊教を信奉する各國人民の通俗的思想い甚だ下等なる奇蹟信仰を有して妄信に沈淪し、無智の愚民は卜筮幽靈を信し、自稱有識の士は降神論(スピリチスムース)を信奉す、今日の日本に於ても妄信尙ほ行はれて從來の宗教は之を撲滅せんとを計らざるのみならず、却て之を養成するの傾きあるが如きことに至りては余の贅言を待たずして讀者の已に熟知せる所なり。

## 第三章　奇蹟信仰を宗教上より評論す

余は前章に於て奇蹟信仰の歷史を簡單に序し來りしが、今や進で正鵠確實なる宗教論と啓示論を根據として、奇蹟信仰を宗教上より評論し其の是非曲直を判定せんと欲す。

抑も宗教の發達は吾人に示すに、神に關しての最も高尙唯眞なる思想は只だ唯一神

教に在ることを以てせり、此の高尚純正なる唯一神教の主義を以て判定せば、多鬼神教の奇蹟、卜筮幽靈信仰の如き、或は近世の降神論、神託妖魔の術等の如きい皆な悉く排斥せざるを得ず、而して其の或は舊約聖書中に有るにもせよ或は聖人信仰の如き佛教とカトリック教會の中に涵養せられしものにもせよ、此等は皆な悉く排斥せざるを得ざるなり、蓋し斯の如き妄信は木偶信仰と敢て撰む所なければあり。

夫れ精細の研究を受けたる神の概念を以てすれば、神は即ち秩序の神あり、正義慈悲の神なり、決して專恣横斷の神に非ざるなり。故に各種の專恣的奇蹟は舊約或は新約聖書中に記載しある者にもせよ、皆な執迷せる猶太教主義より出でたる者にして、決して基督教主義に合ふものにあらざれば悉く之を擯斥せざるを得ず。例せばヤベー神がイスラエル人民の敵を酷遇する事、無花菓の呪咀、ガダラの豕の如き是あり。

其の他奇蹟を評論すべき標準は耶蘇自ら之を吾人に與へたり、嘗て人あり耶蘇に向ひ强て休徵を求めし時、耶蘇は心中深く嗟嘆し、休徵は此の世の人に必ず與へられ



じ（馬可八章十二節）而して與へらるべき休徵は預言者ヨナの休徵ありと云へり、蓋し預言者ヨナは自ら奇蹟を行ひしに非ず唯だ其の說教によりてニヽベ人を悔改せしめたり、之をヨナの休徵とは云ふなり（馬太十六章四以下路可十一章廿九以下馬太十二章四十一四十二）（馬太十二章四十節は其の連絡によりて考ふるに後人の附加しものたると明かあり）故に耶蘇は奇蹟を爲すことを全く排斥し、悔改を促かすに唯だ其の說教にのみ依りたり、實に耶蘇は石を變して食麵とあし、殿の頂上より投して衆人の驚嘆を買ふが如きことを以てサタンの試惡なりとせり（馬太四章路可四章）之れに依て是れを見れば無花菓の呪咀（馬太廿一章十九以下）、魚口の金（馬太十七章十七）、祭司長の僕の耳を醫す事（路可廿二章五十一）、海上步行（馬太十四章廿六）、水を變して葡萄酒となすこと（約翰二章一節以下）サマリア婦人の過去を知ること（約翰四章十八節）、無花菓樹下にナタナエルを見る事（約翰一章四十九以下）、颶風を斥くること（馬太八章廿三——廿七）、五千人の給食（馬太十四章十四——廿一章幷に十五章卅二——卅九節）、奇怪の魚獵（路可五章五以下）、死人を復活せしむること（馬太九

章十八以下、路可七章十一——十七、約翰十一章一——四十四）の如き自然の運行に干渉したるの奇蹟は皆な耶蘇の宗教と相容ざる者と云ふ可き也。之に反して耶蘇若干の人特に精神病者の疾病を治醫し、時人之を見て奇蹟となせしや疑ふ可きに非ず、然りと雖ども耶蘇自らは之を以て絶對的に奇蹟とせしに非ずして、神は——己れに超自然的の力に非ざるも——非常の能力を賜ふて以て病者を治療することを得せしむと信じたれども自ら求めて此の如き治療を行ふことを欲せず、其の之れを行ひしは只病者の切望により、之れを愛憐するの至情に出たるや疑なし、而して治療を求むる者の必ず有せざる可らざる要件は只至誠の信仰ありしあり、故に信仰なき者に至りては耶蘇は實際之を治するを得ざりしなり、吾人之れを耶蘇が其の鄉里の事蹟に徵して知るを得べし。

マホメット或は佛陀の事蹟を探ぐるも其跡耶蘇に等きものあり、彼等は皆共に奇蹟を行ふことを拒絶せり。然れども祖師の沒後年を經る彌久けれバ信徒其の奇蹟に就て談する益〻多きを加へ、祖師の全生は特に恠奇なる奇蹟の重疊して之れを粉飾す



ると甚し。耶蘇の歷史に就て之を云へば幼時の歷史、變貌、死に際しての奇蹟、復活、昇天の如き耶蘇の身に關してありし奇蹟是れあり、然るに此れ等い皆な神が自然(ナツール)に直接に無理に干渉するより生ずるの奇蹟にあらざるはなし、故に神を以て靈とあすの思想と矛盾するものと言はざるを得ざるなり。

此の事たる教會の作爲に係る教義的奇蹟に於て更に甚だしきを見ると雖も、此等は已に精神的博愛的の宗教なる基督教より脫却して再び偶像教、猶太教に退歩沈淪せしものとせざるを得ず、教會の教義の說く所を以てすれば耶蘇は聖靈を父となし人間を母となすが故に神人両性を具ふるものなりと、然れ共是れ偶像教の神子說より脫出したる觀念に外ならずして、神の三位說は其の演釋たるを免れず、又たマリヤを以て神母となすの思想の如きも基督教か偶像崇拜に退歩したるものなりと評せざるを得ず。晩餐の物質變化說は是れ純然たる物質的觀念にして、法皇不可誤論は人間を以て神となす偶像教觀念の粗野を極めたる者なり、僧侶の族を以て通俗の人より分離し、異宗の信徒を排擊し、カトリック教會の他に人を救濟する者なしと論ず

るか如きは猶太教主義鎖國論の再生せし者のみ、「インスピレーション」論、換言すれは聖書は聖靈の筆記せしめたる者にして一字の誤謬なしとの議論の如き之れ亦た基督教に起源する者に非すして猶太のラビ説(學者)と彼の半は猶太教主義にして半は偶像教主義ある哲學者フイローの説より脱し來りたるものなり、然るに神の筆記せしめしものなりとの觀念は神を以て靈体となすの思想と相容れさるや言を待すして知るべし。

之れによりて是を見れば奇蹟なるものは其の聖書中にある者と教義的なる者とに論なく悉く神を以て靈となし愛となす唯一神教の主義と相伴侶し、相親和する能わざるや明ありと云ふ可し。夫れ宗教は漸々自然の束縛を脱し、精神的の自由に達したる者なるが故に其間の一現象として奇蹟信仰なる者起り、以後長く宗教界に一大勢力を占有し且つ其の勢力わりし所以の理も容易に解釋すを得るべし。又た佛教基督教の如き最も精神的にして世界的なる宗教中にも亦た奇蹟の信仰速に其跡を絶つ能わず反て其の祖師の神性論を盾となし、無數の教義的奇蹟の作説せられしも亦た解



し難き事にあらず。然れども奇蹟信仰の事たる純正なる宗教論と相容れず、今や期已に熟し宗教より奇蹟信仰を放擲し精神的の宗教をして自由の發達を得せしめざる可らざる時となりたるや灼として明なり。

## 第二篇

### 奇蹟信仰と學理との關係

夫れ奇蹟わ宗教上の現像あるが故に吾人先づ之を宗教上の連絡より觀察せり、換言せば奇蹟と神の啓示の關係を考へ、之を評論するに宗教的の標準即ち啓示により漸々發達したりし神に就ての思想を以てせり。然りと雖も奇蹟を信するの徒(少くとも今世の)は奇蹟を以て宗教の區域内に限らす、奇蹟の在り得べき事と其の實際わるとを學説即ち理論によりて辨證せん事を務ひ、加之若し彼等にして苟も統一したる觀世説 Weltanschauung を持する事を辨明せんと欲せば、勢ひ理論を用ひて之を證せざる可らす、故に奇蹟の評論も亦た更に理論よりせざるを得ず。

抑も思考は万物を網羅して漏らす所あし、之を以て唯た自然の實體及ひ其の法則を

討究する而已ならず、復た靈体の法則其の實想、換言せば靈体自身の如何なる者なるや（心理學に基きたる認識論（エルケントニスステオリー）、歴史中生活の各境遇（一個人並に人世）に於て靈体の發達は如何なるやを討尋認識せん事を勉む、故に理論より奇蹟を論評するに至りても亦た科學と認識論（狹き意義に於ける哲學）及び歴史の三面よりするを要す、而して科學と哲學い奇蹟のあり得べきや否やを討尋し、一擧して此れが是非を斷定す、吾人之を名けて原理的評論と云ふ、又た各個の奇蹟記事に就き其の記事い實際の奇蹟ありて之を記錄せし、者なるや否を考究し、若し奇蹟記事は實蹟を其の儘に記せし者にあらざれば、何故に奇蹟として觀察せられしや又奇蹟として傳へられしやを考究するに人間の精神發達の法則を歴史中に認識し之れを基礎として設けたる歴史研究の普通一般なる法則より、記事の性質より、記者の性質と其境遇より、其の時代の形勢、信仰、世界に對する觀念、口傳、文籍の遺傳の信憑するに足るや否や、等の諸點より解釋を試む、吾人之を名けて歴史的評論と云ふ。

## 第一章　原理的の評論及ひ其の論極



科學の評論は曰く絶對的の意義に於ける奇蹟（Miraculum 自然連續の破斷）を許容せば、自然運行には法則ありとの實驗に反すと。哲學は曰く若し夫れ奇蹟を信せんか思考の安全は之か爲に奪ひ去らるべし、思考の必然的なるは精神界幷に自然界の出來事は悉く法則によりて束縛せらるゝが故あらずんばあらず、と此等の原因あるか故に近世の觀世説に基き其の説を執りて斷乎たる者は決して一人も活潑なる奇蹟信徒たる者之れあらざるあり。假りに人自ら實驗する所にして甚た奇怪の事跡ありとするも、直ちに之を奇蹟ありと爲す者はあらざるべし、然りと雖も多くの時代、多くの地に於ては奇異なる事跡に關する歴史的の證據あるか故に原理上より考ふれは奇蹟はあり得へからすとの確信い磐石の如く動かす可らざるも、尚は之れに抵抗を試み此の確信を破壞せんとす、素より此の歴史的證據たるや、吾人の奇蹟なる者はあり得へからずとなす確信を打破する力甚た微弱なりとは云へ、二個の敎權ありて能く多くの人をして奇蹟を信仰するに至らしむ。二個の敎權とは一方なる福音敎會に於ては聖書の權威にして、他方のカトリック敎會に於ては之れに加ふるに敎會

の權威（歴史的奇蹟信仰）ある者即ち是なり而して教會の超自然的觀世論は古より歴史的特に聖書的奇蹟信仰と智識とを學説上一致せしめんことを勤め。調和論は智識か承認する自然の法則の嚴正なる點に注意し立論するものなり。

調和論に二種あり

其一は二種の自然秩序ある事を稱ふる者にして、此の説は調和論者の多數を占むるものなり、其論する所を聞くに此論の主張者バイシラーグ Beyschlag チアンデル Neander ニッチ Nitzsch リーブチル Liebner トヰステン Twesten マルテンゼン Martensen ランゲー I.P.Lange クリストリーブ Christlieb 等の諸氏は曰く凡て下等即ち通常一般の自然秩序より觀察せは奇蹟と見ゆる者も上等即ち神か世界を救濟し玉ふ計畫の法則より觀れば奇蹟は法則又は秩序と矛盾する者に非すと。其れ然り彼等超自然論によれる調和神學者は皆此説を執る者あり然り而して此の種の論者は斯くの如く論及すと雖も其難問は尚は未た十分に解釋し了りたる者にあらさることを知り、更に歩を進めて通常一般即ち下等の自然秩序を以て道理に翕合したる者なり



と説かんことを求め、無理にも奇蹟即ち上等なる自然秩序の顯現を以て通常の自然秩序と毫も齟齬したるものあらすとなし奇蹟は超自然的なれとも反自然的ならすと論す、例之ハフリードリヒ、オルスハウゼン Friedrich Olshausen 氏の急進的自然過程(Der beschleunigte Naturprocess)の如き是也、氏曰くカナの婚宴に於て水は實に葡萄酒と變化せり、然れとも是れ敢て絶對なる超自然的の出來事にあらず、夫れ通常を以てすれは葡萄樹の吸入したる水液は日光の助けを以て葡萄菓の中に葡萄酒となる者あり、耶蘇は眞に此の過程を急速ならしめて水を變して即席に葡萄酒に化したりしのみと。思ふに此の説の笑ふべく取るに足らさるものたるは吾人の言を待ざるべし、況んや葡萄酒釀造の如きハ單に自然の過程のみによるに非ずして人工的なる醱酵過程あるに於てをや。加之吾人若し已に秩序に干渉する者は即ち在來の秩序を破る者にして、自然を超絶したる事蹟ハ又た自然に反し、智識を超絶したる者は又た智識に反するとを覺知せは、自ら此説の非理なるを知るべし。

抑も自然に二種の法則ありとする説の由りて來る所を研究するに、是れ實にプラト

ー主義と之を祖述したるフィローー及びグノスチック派の學說に淵源するものなり、故に彼のフラトー、フィローの如き二原論主義の觀世說に加へらるへき評論ハ亦た二重の自然秩序を主張するの論者に加へらる可きものと云ふ可し。而して其の論評せらるべき點二あり、一は哲學上よりするものにて一ハ宗教上よりするものなり。哲學上よりすれは二原論主義の觀世說はコペルニクスに起源せる近世の一原論主義の觀世說と撞着し。宗教上よりすれは神と世界とを隔絕するに、更に其の中間にある世界を以てするか故に又た之を擯斥せさるを得さるなり。

調和說の第二派は自然に法則の二種あるを說かすして法則の唯一なるを說くものなり、而して其の論者の奇蹟論に數種あり左の如し。

第一　自然と神の意志とを以て全一とあす故に此の說は Miraculum (奇蹟)を說く者にあらすして Mirabile (不思議)を說く者なりアウグスチン、トーマス、アクィヌース、アルベルツース、マグヌースの如き是に屬す。

第二　奇蹟は自然の全經過中へ世界創造前、已に神より嵌入しおかれたる者にして



預定の時に及ひて顯現する者なりと論するものありライプニッツ、ボチーの預備說 Präformationstheorie 是に屬す。

第三　「ゲッチンゲン」學派は曰く自然と精神の客觀世界は人智の得て認識し得へき所にあらず、聖書の啓示は已に一個の奇蹟にして其上に建設されたる神國の道德的秩序は基督信徒の宜しく固執すへき者に屬し、奇蹟は唯た其の主觀的價値に於て宗教上の生活の爲めに甚た尊重すべき者なりと雖も、辨證學、哲學、科學の見解により て其の客觀的にあり得べきものなるや否やは論じ得らるべきとにあらすと。

余は前の三說に向て逐次評論を下さんとす。先づ第一說は自然の秩序ハ神の意志と同一なりとなすか故に絕對的の奇蹟主義を否定するが如し、若し然らずして純然たる奇蹟說を主張せんか是れ神を以て人間的有限なる萬能專恣者と見あす者なれば自然ハ嚴然たる法則を守りて漸次進步するものなりとの主義を破壞すと云ふべし。第二說は第一說の維持し得べからざるを知り、其の困難を避けんが爲め、神の專恣より出でたる奇蹟の業を器械的に自然運行中に加へり。然れども此の說たる自然の秩

序的發達を否定するものにして、秩序的發達を否定するは自然自體を否定する者なれば復た執るに足ざる說なり。第三說に至りては宗敎的と哲學的の二種の眞理あることを說き、以て問題の解釋を避けしのみにして實際之れを解釋したる者にあらず。

其の他現今の固執派並に調和派神學の多數の代表者は、他の問題に於ては今世の心識と說を同うすれとも奇蹟の事のみ今世の心識と全く相合せざるが故に、其一大障害となる事を覺知し、可成的傳說せられたる奇蹟の數を減せんことに苦心し、尙は殘餘の奇蹟に至りては其の不思議の度を低からしめんことに急々たり。即ち奇蹟の數を減するには合理派の法方を用ひ、又た奇蹟の不思議なる度を減するには其の宗敎的若くは敎義的の價値を減少せしむ。特に之を爲す者は調和派神學者にてはリッチュル氏の如き其最たるものなり。シュライエルマッヘル氏の如きも或は此の傾向あるが如し、されとも其主義に至りては全く方今の觀世論と異なる所あしと云ふへきなり。



或は奇蹟を解釋すると極めて漠然にして、人智は得て之を解說する能はすとなすものあり、其說に曰く世界に於ける連續、世界に於ける神の支配、有機界に於ける繁殖の如き皆深く之れを研究すれは得て解すへきことに非すや、と素より然り、何人と雖も智識あらん者は之れを承認すべし、實に吾人の智識は世界中の万事を悉く說明し能はざるべく、吾人の智識には限界あるものにして嘗て科學の大家デュボア、レモン氏 Dubois Raymond の言ひし Ignoramus et ignorabimus（吾人は今も認識せす又た後來にも認識せざるべし）なる語は眞理なりと言はざるを得す。こゝに於てか銳才なる固執派の論者は、ライプチヒ府のルータルド氏 Luthardt が其の辨證的演說 Apologetische Vortraege に於て爲せしか如く、此の虛に乘して、說明し得さる者と奇蹟とを同一ありとなす、實にルータルド氏の如きは奇蹟を廣漠に觀察し、自然の秩序と一致せる奇蹟のあり得ることを論じ、後ち直入して絕對的奇蹟即ち自然に反するの奇蹟をも此の中に於て解釋せんと試み。自然運行の高妙不思議なると「奇蹟」とには實際意義の區別あるにも係はらず勉めて之を堙滅し去らんとせり。

以上序し來り論じ去りたるが如く調和を試みんとするの諸說は紛々として百出し、奇蹟の不思議なる度を成るべく微弱ならしめんとして急々たるは是れ奇蹟は晩今の觀世說に對して自ら保つ能はざるに至りたるを示すものにあらずして何ぞや。彼の聖書中の奇蹟記事は他書の奇蹟と類を同じくして論ずべからずと云ふ說の如きは、之れ全く機械的に觀察せられたる「インスピレーション」說と血脈相通ずる者なり。（此の事に關しては後章更に論ずる所あるべし）吾人は以上縷々陳述し來りたるの理によりて聖書にもあれ、他の記錄にもあれ、苟も奇蹟談と稱すべきものに至りては悉皆之が信仰を絕たざる可らずと信ずるなり。

## 第二章　歷史的の評論

吾人は前章に於て原理上より奇蹟のあり得べからざる理を斷定したりしを以て、今更に歩を進めて歷史的評論に轉じ、聖書中奇蹟の敎義的基礎と、其の各奇蹟談とを研究せんと欲す。

抑も聖書に記錄せられたる奇蹟談を維持する敎義的基礎は「インスピレーション」說



にて、「インスピレーション」說と奇蹟信仰は啓示信仰の両面を爲し、互に兄弟たり、姉妹たり。古人の啓示は或は神の言葉の告げ、託宣によれる神の智識、預言、聖書の「インスピレーション」（言葉の啓示）によりて成り。或は信徒を祐助せんが爲め神其の力を分與し、或の自然と人間世界に干涉する（業の啓示）より、成ると信ぜり、而して言葉と業の啓示の皆な共に先づ純然たる超自然的のもの、即ち奇蹟なりと觀察せられたり、かゝる幼稚の思想は各宗敎固執派の常に固持する所にして、「アブ〳〵スター」も、「ユテン」も、大乘（マハヤナー）も、小乘（ミカヤナー）も「コーラン」も、聖書も、其の宗の人よりは皆な「インスピレーション」を受けたる者とせらる。然り而して「インスピレーション」は是れ即ち一大奇蹟と言ひざるを得ず、故に此れ等の書中記する所の奇蹟、特に聖書の奇蹟談の實事なることを證するに聖書の「インスピレーション」を論據と爲すは即ち奇蹟を證するに奇蹟を以てする者にして、是れ循環論法を用ゆる者なりと云ふ可し。論して茲に至れば評論は已に奇蹟の敎義的基礎を奪ひ去りし者なり、吾人は先づ之を奪ひ去りたり、故に更に聖書中奇蹟談の各個に就て辨論する所あらんとす。

近代の始めに當りスピノザ氏等二三學者の奇蹟論ありしと雖も世人の注意を喚起すること甚だ微弱なりしが合理論起りて聖書の記者は所謂奇蹟なる者を後世の人に傳へんとを欲したるにあらずして、合理の事跡を傳へん事を欲したるなれど其後注釋法は迷路に陷り、遂に記者は誤解せられたりと説き、合理的解釋法により奇蹟を聖書中より鋤去せんことを計れり。然れども合理論は歴史講究の法則に通すると精しからずして、其論法不完全なりしなり。

其の解釋せし所に就き例せば、曰く、ラザロは眞に復活したり然れども彼れは前に眞に死したるにあらず、假死し居たるなり、故に復活せしも、そは奇蹟と云ふに足らず、と又た曰く、カナの婚宴に於て耶蘇は眞に葡萄酒を人々に分ち與へたり然れども耶蘇は祝賀の饋物として私かに葡萄酒を携らし、之れを人々に分與したるものあれば奇蹟となすは誤謬なり、と此の解釋法の正鵠を得さるは今日人の善く知る所なり。之れに反して、パウル、ストラウス氏以來近世の評論（クリチック）は聖書の記者は眞に奇蹟を記するの意ありたる者あるが故に、奇蹟談を解釋するには主觀的奇蹟信仰と其の記事の



性質とに基き歴史的に考證せざるべからざることを覺れり。

今や歩を進めて奇蹟談の考證に入るべきなれども、其の各記事を執て漏らす所なく研究するは此の紙面に企て能はざる所なれば、余は啻だ奇蹟評論の——殊に新約聖書の——爲めに必要なる點を擧て論することとあすべし。

吾人は以下に陳述する理由あるを以て福音書の奇蹟談は歴史的に信憑するに足らさるものと斷言せん。

第一　彼の時代の編述に成る歴史は悉く皆な今日の歴史編述の如く、證書的に確實なる記載となす可らざればなり。

第二　福音書の記錄の成りし時と。其の記錄せられたる奇蹟のありし時とは、相去ること遠ければあり。

第三　約翰福音書と共觀三福音書との記事を比較するに於て而已ならず、共觀三福音書を互に相對照するに於ても解すべからざる齟齬の其の間にありて存するもの許多なればなり。

第四　四福音書中に於て歴史的に後に記錄されたる記事（特に路可及ひ約翰傳の記事）と、其の以前にありて記錄せられたる記事とを比較對照するに奇蹟談の增長せるを認むれはなり。

第五　基督教に於ける最古の信覆すへき文籍は保羅の書翰なりと雖も、其の書中には福音書中に錄述せられたるか如き耶蘇の爲せし、及ひ耶蘇の身に關して行はれたる奇蹟の痕跡全くなく、耶蘇の身に就てありし奇蹟中、特に其の處女より生れたりとの事の如きは羅馬書一章三節（τοῦ γενομένου ἐκ σπέρματος Δαυεὶδ κατὰ σάρκα 肉體によれば ダビッデの裔より生れ）と加拉太書四章四節とにより斷然否定せられざるを得ず。又古代基督教の記錄中最古に屬する、使徒行傳中の記錄にも耶蘇の醫療（特に其の十節卅二節は惡魔に憑られたる者を癒す）を爲せしことを記すのみ。此の他尙ほ當時の狀況を以て考ふるに、此の時にありては人々奇蹟を以て奇ありとして、怪しむの念慮毫もなく、且つセミチック人種の實際に着眼したる觀察と其の特異の思辨とは（「インドゲルマン」人種と相反し）世界の各現象を以て直接に神より出



づる者ありとおし實は其間に媒介源因ありて存し之によりて間接に神より出づるものなる事に注意せざりしなり。恰も此時代に當り東國（西亞細亞）と希臘羅馬の世界に於ては奇蹟を求むるの念慮盛にして、特に猶太の救世主は最大奇蹟をなすべし、否お爲さゞる可らずとは其の人民の一般に信ぜし處なりき。

前文陳述せしが如く、文籍上の傳說、學說的觀世論及び歴史的の關係の形勢は奇蹟談形成の最大原因となりたるや疑ふべきにあらず、然りと雖も尙ほ更に特別の原因と動機（モチーフ）とありて存し以て何故に耶蘇の一生涯は斯くも多くの奇蹟に富むのみならず、然も今日吾人が其の記錄中に見るが如く奇蹟を以て裝飾せらるに至りたりやを解釋すべし。

福音書中の奇蹟談の形成に取て大原因たりしものは、宗教的原因なりとす、蓋し啓示中保者の人物は奇蹟を以て雄大にせられ其の生涯は神明の聖光に包まれて世人より觀察せらるゝが故なり。而して彼の中保者い皆實際其の教會より斯く觀察せられたるなり。是れ宗教歴史中の通則にして佛陀、ツォロアスタル及びマホメッドの如き

歴史によりて見るも亦同一なり。而して其人物を雄大ならしむるの法は當時の學說的觀世說に基き、奇蹟の事を增大にし、或い其數を增加し、或は極めて卑賤に奇蹟を觀察し、其の觀察によりて之を記するに在り。

此の事たる以下に陳述せんとする種類に屬する奇蹟の形成に際し與かりて甚だ力ありしものなり。

凡て耶蘇の爲せし奇異なる醫療の記錄は、之に關する各記錄を對照するに、歴史上の實蹟たるや疑團の容るべきなく（特に使徒行傳十章卅八節は單明にして且つ最も信憑するに足るべし）、耶蘇か夫の惡魔につかれて病める者及ひ身体の病める者を治癒せしは事實なりと云ふ可し。されは時人い何故に此の事を以て奇蹟となしたりしやと云ふに、是れ已に業に前文に於ても論述せしがごとく彼の時代に當りては科學幷に心理學の智識進步せざりしを以て、雄壯にして意志の强剛なる者の精神が、病者の精神或は其の神經に激動を與ふるが爲め生じたる自然的の顯象を以て直ちに超自然的と做したるに素因す。而して此の有樣は夫の惡魔につかれたる者の例に於て



最も明に見るを得へし元來「惡魔につかれたるもの」とは「ヒステリー」「エピレプシー」を病む者、或は狂人を指すものにして、古人は之を以て疾病とおさず、惡魔なる者ありて人身に憑依し、之が爲めに鬼病を患ふものなりと思へり。此の思想は耶蘇の時代に於ける猶太人中にも普く行はれたる者にして、此の患者を醫治するとを稱して惡鬼を驅逐するの法といへり。

其の他福音書中の奇蹟談の若干は耶蘇の述べし語、特に形容的の格言、比喩、口碑となりて後に傳へらるゝに當り、遂に一轉して實跡とせらるゝに至りたる者なり。無花菓樹に關するとの如きは、馬太七章十九節の格言は轉して路可傳十三章六節の比喩となり、比喩復た轉して馬太廿一章十九節の奇蹟談となるに至れり。漁獵の事の如きも馬太四章十九節馬可一章十七節の耶蘇の語は、路可五章五、六の奇蹟となり、尙は更に一轉して約翰廿一章十一節以下の奇蹟談となり。又た彼の試惡の歴史の如きも此と類を同くする者ならん。是を以て之を見れば無花菓の呪咀、ガダラの豕、魚口金を得るの談の如き、皆な始め比喩たりしや疑おかるべし。實に此等の奇蹟

談は道德上甚だ不愉快の者なりと雖も此解說は其の惑を一掃し去るべし。

約翰福音書中の奇蹟談は凡て耶蘇の演說に依りて述べられたる宗敎上の眞理を比喩表識的に裝飾する爲に須ゐられたり、即ちカナの奇蹟は耶蘇の敎說の斬新にして精神的なると、パリサイ人の死文的儀式宗とを相比し。三十八年間患める病者を醫治すとは實て三十八年間砂漠中を彷徨しれるが如く今も尙ほ迷路にあるイスラエル人民の救濟に喩へ。盲者の醫治は「我れは世の光なり」なる語をあらはし。五千人給食の奇蹟は「我れゝ生命のパンなり」なる語をあらはし。ラザロを蘇生せしめたる史話は（路可十六章廿節以下參照）「我は復生なり命なり」なる契約の眞理を表識的に示すものに外ならず。

其の他の奇蹟に至りては吾人之を幻像說によりて解し去るを得べし、幻像は元と精神激昂の爲め內部より發生せし五感の興憤激昂ありと雖も、古人は心理の智識に乏しかりしか爲に幻像を以て主觀的のものとせず、眞實客觀的の事蹟ありとせり。耶蘇の受洗に際しての鳩、變貌の時のモーゼ、エリアの現顯の如き、若し歷史的の事



にして鬼神談（ミュツース）の部類に屬せざるものなれば則ち幻像なり。而して幻像說か最も明瞭に解釋し得るものは、復活奇蹟談なりとす、此の事たる哥林多前書十五章に於て保羅が最古の敎會に於ける耶蘇の出現と自ら見し幻像とを全く同一視するに依て明なり（加拉太一章十六、哥林多前九章一節參看）夫の福音書中に在る肉（體σῶμα にあらず）の復活說の如きは實に保羅の主義に反するものなり。蓋し保羅は肉（σάρξ）を以て絕對的に罪ある者となすか故なり、保羅は此の事を更に哥林多前書十五章五十節に詳論せるを以て誤解の患ある事なし。

神の如き人物なる耶蘇を裝飾して特に雄大ならしめしは其の生活の始終を裝飾する不思議、即ち變貌、復活、昇天、生誕史の奇談に在り。蓋し此の史話の形成に當りて特別に其動因を成せしものは舊約聖書中の模形なりとす。實に舊約聖書中の勇將、預言者の有名なる事蹟は更に秀逸完備したるの度を以て救世主の身に適當せられ、彼に於て始めて其の完成を得たりとせられたれは新約聖書中の記事を粉飾するには大に好資料にてありし也。今其の類を擧ぐれば處女の產兒はエサヤ書七章十四、詩

篇二章十七節より耶蘇生誕以前の天使の宣託ハ創世記十七章十五節以下（サラ）サムエル前書一章（ハンナ）士師記十三章十三節以下（シムソンの母）より博士の星は民數紀畧廿四章十七、エザヤ書六十章、詩篇七十二章より。ベツレヘムを以て生誕の地となせしはミカ書一章より。埃及への遁走はエザヤ書十一章一節より。試惡史ハ申命記八章二節、出埃及記卅四章廿八節、列王記略十九章八節ザカリヤ書三章一節より出でたり。

晩今に至りてザイデル Seydel の如き人々は新約聖書中の奇蹟談、特に生誕史の若干は佛教中の史談より取り來りたるものなりとの説明を試みたり。若し夫れ南部の佛教聖經 palikanon の如き古傳説又は北部の（サンスクリット）聖經に屬したる佛陀の傳記中より福音書中の奇蹟記事と著しく相類似せるものを列擧して二者の關係あるとを證明せんと欲せば彼等は猶廣く此點に就て其の研究を爲さゞる可らず、然らざれば吾人は未だ之を贊して確然たる斷定と爲すと能はず。

吾人は前陳せし所を以て、聖書特に新約書中の奇蹟記事を擧て、何故に此の如きの



奇蹟史談成り立ち能ひしか、又た成り立ちたりしや、其の原因動機を辨明し、且つ歴史的の評論をなせしが（各奇蹟に付て個別に之を講究せざりしとは雖も）亦前の原理的評論と同一の結果を得、聖書中の奇蹟も亦た固持すべきものに非ずして、聖書的或ハ歴史的奇蹟信仰は理論的思辨の評論に堪ゆる能はざるとを知れり、然りと雖も吾人は亦た一方に於て歴史的評論は聖書幷に其の餘の歴史に於て吾人に傳へられたる各奇蹟のあり得可らざるとを完全に辨明する能はさる事を白狀せざるべからず。蓋し傳説の事跡は吾人を去ること甚た遠く、其の記錄や細密ならず、或は相齟齬する所ありて精しく確定し能はさる者あれはなり、故に歴史的の評論も其の終極の點に及べば今世の觀世説に基きて奇蹟なるものハ凡てあり得へきものにあらずと斷定せる彼の原理的評論に其補助を借らさる可らず。

## 第三篇

## 大結論

吾人は前篇に於て、奇蹟信仰は宗教心の最高等なる者と相容るゝと能はざるの理

と理論よりするも亦た奇蹟信仰は啓示信仰中の採るに足らざる部分なることを示せり。故に奇蹟信仰なる者は宗教(特に基督教の)心の發達の爲め前代には宗教に大價値ありたるものゝみならず。今日も尙はある多くの正直篤信なる人の爲めには價値ありと雖も、若し基督教にして世上一般の人間社會に於ける精神の發達に後れず其の放棄する所とならざらんと欲せば奇蹟信仰を拋棄するゝ基督教の精神、其の主義の開發進化の爲め必要欠く可らざる所なりとす。此等諸理由あるか故に晩今の評論的辨理的なる神學ゝ毫末と雖も奇蹟を信せず、由て又た他の二請求を滿足せしむることを得るなり。二請求とは何ぞや、一は現今の學術(哲學科學歷史學)よりする者にして、奇蹟を否定することにより學術は宗教的觀念の爲に(特に煩瑣神學の爲め甚たしく)其の發達を障害せらるゝの患害なきなり。一は特に基督教よりする者にして、奇蹟信仰を放棄せば陳腐に屬したる觀世說に基ける議論を固持するの必要なく、進步したる學術に由て其の議論を新に構成し、且つ之れに由て復た晩今の觀世說の論難攻擊を恐れさるべし、故に晩今の神學は宗教と學術の領地を純然區別するが爲め、奇蹟問題に關しても亦た宗教と學術とをして和親せしむることを得るなり。



評論的神學の議論實に此の如し、日本の論者は此の說に對して如何なる說を爲さんとするか。

思ふに余が此の一小冊子の議論は、全く固執主義を執るものより論難せられ、又た恐くは之を論破せんと試むる者をも出すべし、然れども若し其の論難にして余か學說上の論證を非となし、之れに反駁を爲すものならんには余は靜に之に當らん、然れども若し其の攻擊にして余か此の冊子の爲め、實際上に及ぼす利不利を說くものならんには、余は覩面之を斥けさるを得ず、則ち「破壞を欲する者なり、信仰の城郭を攻め落さんと欲するものなり」とは恰も吾人を評する套語となりたるか如しと雖も是れ未だ我持論を觀破したるものと云ふ可らず。吾人は實に建設を欲し、信仰の城郭を堅固ならしめんと欲するものなり。元より其城郭たる、攻擊を受くること甚だしく、其の敵も亦た多し、或は實際的の不信仰或は唯物論、實際理學(ポジチヴイズム)の學說、又た日本に於ては他の宗教信徒皆な我城郭を陷れんと競ふものなり。然り而して防守

するもの若し已に過半土落ちたるの城堞、柱梁腐れたるの城門、旱涸したるの城池に據り、彈丸敵地に達せざるの鈍銃を放ち、敵の鋭兵利器に當り、以て自ら善く守り得べしと云はゞ是れ自ら欺くものにあらずして何ぞ。廢壁、傾門、空渠、鏽銃決して敵に當るの具にあらず、宜しく壁を高くし、門を堅くし、渠を深くし、新なる彈丸銃銃を鑄造し、保守すべからざる外郭は悉く破壞し去るべし、然らざれば敵之を利し之に據り我を攻むるの便を得ん、是れ覩易きの理あり。されども城中に在りて、自ら安全あり、堅固なりとなす者は、若し其の城壘は強固あらず其の兵器は頼むに足らすと說くの士官に遇へは、心甚た樂しからす、說く者を以て或は反間者となし、或は懦夫と呼ばん、如此は世上滔々として多し敢て喫驚するに足らす。さはあれ彼の士官にして忠誠の士ならんには其の良心は失望する勿れ恐怖する勿れ世人其の諫告を聞くに至る迄は勉めて諫むへしと命ずべし。

吾人の地位は恰も此の士官の如し、吾人は更に大聲して呼ばん「吾人は攻擊せんと欲する者に非す、防守せんと欲する者なり」と、されども吾人は戰ふに吾人の武器を



以てし晩今の宗教を蔑視する者、基督教を抗擊する者と戰ふに吾人の武器、即ち晩今の宗教歷史學、史學、哲學、科學の研究が吾人に與へたる武器を用んと欲するなり。

日本の地には基督教に反對する敵二あり、一は通俗の偶像教にして、一は不信仰なりとす、此二者と戰ふとは吾も固執主義基督教徒と少しも異なる所なし。而して此の二論敵中危險なるは、特に學者社會に流行する不信仰なりと云ふべし、ブュフチル、コント、スペンサー、ヘッケル等諸氏（Büchner, Comte, Spencer, Häckel）の著書は彼等學者の愛讀する所にして彼等は復た其の說に通曉すべし、而して其の基督教に反對する武器の出處也。元より基督教の道德、其の實業の世を慈濕し、世を幸福ならしむるの大なるは歷々として万人の眼前にあるを以て之を辨難攻擊するも、殆んと爲さゞるに等しかるへけれは之を攻擊する者あることなし。又た神は靈なり、愛あり、との純正有神的の信仰も決して論破し去らるべきものにあらず、何となればブュフチル氏の唱道するが如き淺薄なる唯物論ハ日々其の信用を失し、コント派

の懐疑哲學は、眞理の蘊奥を探らんと欲する者を永く滿足せしむるものに非すして、基督教の有神論は時に或は論破せられたるか如き外觀を呈すと雖も、常に再び其の學理的の權理を哲學の法庭に回復するを得ればあり。然り而して基督教の負傷部とも稱すべくして、反覆攻擊せらるゝものは其の奇蹟信仰なりと云ふべし。即ち聖書中に記述せられたる及ひ教義論の形成したりし（基督の神性三位一體晩餐の物質變化等）業の奇蹟及ひ言葉の奇蹟（インスピレーション）の信仰是あり。若し夫れ基督教にして此等攻擊を受くるの點を拋棄せんか、勁敵も其の要害を失して何を攻擊すへきやを知らす其の途に苦しむ可し。之に反し基督教の道德的の勢力、其の宗教の深邃なるを見て内心私かに之を慕ふも其の智識に反對する者を智識的なりと承認する能はず爲めに躊躇する者も從來の障害即ち奇蹟信仰の撤去せらるゝを見ば、雀躍して基督教の門に入るべく其數も亦た多かるべし。獨逸の篤信なる詩人イマヌエル、ガイベル氏嘗て歌て曰く

Wollt ihr in der Kirche schoss,
Christen, die Gestreuten sammeln,
Macht die Pforten weit und gross,
Statt sie selber zu verrammeln

（言は、汝等基督信徒たるもの若し散りたる者を招集して教會内に入れんと欲するなれば其の門を堅く鎖すことく之れを廣く開くべし）



と。

我自由派神學者の説は果して日本に於て、子々孤立の体なるか、余輩は否然らすと答へ得るを悦ふなり。余か始めて奇蹟論を公にせしは「眞理」第四號にして、實に昨明治廿三年一月にあり、爾來奇蹟を論するもの許多ありしか其の中説の相類似せる點あるものも亦た少なしとせす。福音新報第六、八、九、號に於てドクトル、ノックス氏い奇蹟論の單篇を公にせしか、氏は元來余と説を異にしたるものなりと雖も其の中、宇宙万物は神に依りて貫かれ、其の働の花禽草木等凡ての者の中にある事を説き、之に依りて復た奇蹟の教を受くるを得可しとなすを見る。余は信す此等自然の運行

は通常人か奇蹟と稱する宇宙法則の例外あるものよりも遙に敬拜するの價値あるを。横井時雄氏は特に余か奇蹟論に注意せり、余は眞理第四號に「奇蹟論」第七號に「保羅の基督信徒となりしは果して奇蹟か」第十號に「六合雜誌記者に與ふ」第十四號及ひ第十五號に「奇蹟の奇蹟」第十六號に「余か奇蹟論殊に基督復活論に對する横井氏の批評に答ふ」なる數篇を公にし其の第十九號に於ては丸山氏の「朱氏の奇蹟論と横井氏の其評」なる論文あり。横井氏は六合雜誌第百十三號に於て「醫療奇蹟と天然奇蹟」百十六號に於て「奇蹟に關して眞理記者の辨明を讀む」百二十一號に於て「眞理記者の奇蹟の奇蹟論を評す」百二十四號に於て「四たひ眞理記者の奇蹟論を評す」の諸篇を公にせり。余は元と斯く長論戰を欲したるにあらざりしも止を得すして事如此なりしか、其の讀者は横井氏と余との間に幾多の異說ありと雖も其の要點に於て一致する所亦た多きを認めたるなるへし。其の最要問題なる基督復活論に關して、横井氏は獨逸に於る耶蘇傳學の大家カイム氏の說を執れり、是れ余と横井氏との間に他の點に於て一致に近づき得るの證となすに足らんか。其の間余は復た他に余の



說を贊成する者を多く得たり、其中には其の說を世に公にするものもあるなるべしと信ず。然り而して余か更に大聲して世の注意を喚起せんと欲するは若し日本の神學者にして眞に日本基督敎なる者を產出せんと欲するなれば、漸次益吾人の立脚地に接近せざるべからざると是れなり。夫れ總ての異分子、元來基督敎に屬せざるものと基督敎とを分離せんと欲せば單に基督敎に侵入したりし希臘の哲學、羅馬の法理のみならす、純粹の基督敎に屬せざる猶太敎主義（ラビー）學者的の敎義と又た之れに最も直接の關係ある奇蹟信仰を基督敎外に追放せさるを得す、而して後ち始めて日本風の基督敎は基督敎の最も純粹なる形を得て已にレッシング氏か稱せし基督の基督敎なるものを組成し基督自家の唱道したりし、奇蹟なき神愛、人愛の基督敎に復歸す可し。

其れ然り、第十九世紀の服裝をつけたる基督の基督敎は如何なる觀を呈するか。斯く論し來れは、多者の胸中先つ危みの念生し、されは基督敎起りてより以後千八百有餘年の間に得たりし無比の價値あるものは廢てられ、其の宗敎上の內容は空虛

となるに非すやと云ふ者あらん、然れとも此の念は甚た杞憂に屬す、余は以下に於て恐怖の非理なるを先つ論す可し。

先つ吾人か破らさる可らさる者は。猶太教、偶像教より傳來せし、神を以て万能的專恣者となすの思想にして、之に交ふるに眞に基督教の本旨を得たる、神は靈なり、愛なりとの思想を以てせさる可らす。又たコペルニクス派の觀世說と晩今科學の曉知したる所に基き、宇宙の概念を極めて純潔にし。哲學の（特にカント氏の）曉知せし所に基き、人間と其の精神の働きの概念を心理的に正當に解せさる可らす、而して後始めて啓示宗教殊に基督教のことを宗教的に深邃に、學理的に眞正に曉知し、宗教を生命ある者となし、實際に大價値あるものとなすを得べし。

凡て我等人間は万事物を研究して其蘊底に達するを得るものに非すして、吾人は唯た人間的の比喩（アナロギー）に依り、形容的に其の理を解し得るのみ、故に我精神の達する究竟者、即ち神も亦た人間的のアナロギーに於て思考せざるを得ず。夫れ精神は體内に働き、又た體に依りて働くが如く、神も亦た宇宙の中に働き、宇宙に含有的（インマヂント）のもの



あり。故に此の說は全く二元論と相反す。然而して恰も精神か體と同一体ならす、且つ精神は體中にありと雖も、體よりは更に高等なるが如く、神も亦た超絶的のものなり、換言すれば神は空間的に世界外にあるにあらずして概念的、能力的に世界より超絶したるもの也。故に此の觀念は凡神論を容れす。實に基督教は凡神論と二原論の中庸にして唯神論（テイスムース）なりとす。夫れ神の啓示は恰も精神か身體の機躰によりて己れを啓すか如く、神も亦た復自然の中と自然によりて己れを啓示し、例外の事蹟によらず嚴然たる法則によりて己れを啓示す。吾人は自然の法則は自然中に於ける神の啓示の最高なるものたることを信す、彼の遠心力、吸心力の法則の如き、宇宙に遍滿して働かさる所なく恒星惑星も其の支持する所となり、人の測り能はさる極微の間にも亦た其の働あり。進化の法は吾人に示すに不完全なる者も漸次に完全の域に進み、單簡なるものも漸次複雜となるを以てす、嗚呼偉大なる哉宇宙、聖なる哉其の法、仰て之れを望めは我靈我心は之れを拜し、之れを創造し之れを維持し之れに依りて己れを啓示する神靈の万能全智は述ぶるに語なからんとす、吾人研究の最終

は其れ唯た崇拜にあるか吾人の智識を絞るも認むる所は唯た外面の一部に止まるのみ。ゲーテー氏曰く「造られたる靈は自然の裏面に入る能はず」と其れ然り吾人の精神は唯た法則い神の無限の啓示あることを知るを得れとも、法則の何たるやに至りては知るを得さるなり。

吾人は眼を他に轉して神の、啓示の更に高尚なるものを窺はんとす。

夫れ人の精神は言語と其の思辨に於て啓はるゝか如く、滿世界に遍滿せる精神も亦た自然に於けるよりは更に明瞭に、更に高尚に、精神界、人間界に於て、一個人の心に、人世に啓示せられすんはあらす。而して此の啓示たるや自然世界に於けるか如く、單に其の万能全智を啓示するのみあらす、實に其の正義 神聖、恩惠、慈愛を啓示す。

神の精神の啓示は與へられて一個人の心にあり、希臘の詩人は曰く「我等は神性を有す」と、聖書の語に曰く「神は其の像のごとくに人を創造したまへり」と、然り古より人心は創造せられて神の精神の像、其の啓示の器たり、人の感情は神の愛にありて



滿足を得る迄は安きを得すして之を求め。其人の智識は受造物と己れの心底とに於て神を知るに至る迄は之れを求め。其の意志は肉の弱さと其の罪を漸次に勝ちて、神の意志を全くするに近かずんば息まさるべし、是れ神の攝理にあらすして何ぞや。アウグスチン氏曰く

Fecisti nos ad te et cor nostrum inquietum est, donec requiescat in te

と宜なる哉。

神の啓示は復た人世の歴史に於て明らかに見るを得、殊に人類の道德智識の發達に於て之れを知るを得ん、彼の文明歴史は神の支配の跡と云ふとを得へく、文明歴史中殊に啓示を示したるものは宗教歴史にして最下等の偶像崇拜より、靈と眞理に於ける崇拜に進むとを記せり。神は人の精神に万物の大原因を探求するの氣力を與へたりと云ふべく、而して神は恰も求むる者迷へる者に、上より手をのへて迎ふるか如く、己れを人類に啓示す。

凡そ啓示の光は世多く之れ有りと雖も、聖書中に於けるか如く明らかにして潔白な

るはあらざる可し、聖書は一國民か百千年の間正義と平和を慕ひ、神との一致救濟を求めし跡を示し、舊約の預言者の如きは之を求めて得す、基督に至りて始めて其の渇望せし所を完成し得たり。抑も基督の神靈によりて照されしは、他の之に比す可き者なし宜あり其の「神の子」と稱せらるゝや、彼は父より其の職を授かり、父の啓示によりて罪人を救ひ父の家に歸すべしと命せられたり、彼れは永劫の生命の泉源を開き、而して此の生命は地上已に其の始めを爲し、死後更に有限の域を離れて、神と圓滿なる一致を爲すべし。彼は天國を地上に招けり、換言すれば信徒及び救濟されたる團体は其の一致によりて自己と其の未だ罪にありて困苦せるものを導て、漸く自由を得せしめ、神に似て潔白に、正眞に、神聖に趣かしめんとす。且つ基督は單に言語によりて其の道を述べたるに非す、其の行爲は此の道を堅固ならしめ、其の死は之れか證をなすあり。

是れ人世に於ける最高最大の神の啓示にして、復た自然に於ける啓示と毫も矛盾する所なく、互に相容れ相補ふものなり、固より此の如き啓示も其終極の原因を知ら



んとせば、薄弱なる人間の精神の爲には秘密(ムユスデリウム)と云ふべし、吾人は之を認識し了するを得すして唯た拜するのみ。然れども此の秘密によりて基督信徒は全く實際的に世界の難問を解く可し、不幸困難にあるの基督信徒は恐懼して「如何で我れ之れに堪ゆるを得ん」と呼ばす、又た「何か故に神かく我を遇し玉ふや」と問はす、彼れは天を責めんともせず、其の艱難を免かれんが爲めに神に奇蹟を求めす。彼れは何處にても神己と共に在すを知り、神は父にして彼を棄てす、彼は耶蘇より「我心のまゝを成さんとするに非す聖旨に任せ給へ」と祈禱するを學ぶべし。

奇蹟を信せす、然れども自然と人世に於て神の啓示の測るべからざる大秘密あるを信し、此の信仰によりて世に生活する者の觀世論は、神の啓示は元來嚴然たる法則の例外即ち奇蹟談に依て全きを得とあすの奇蹟信仰よりも、其の敬神の精神決して劣りたるものに非す。殊に此の觀世論に從ふものゝ學ふ所は万物の神にして、我父たる者に事ふるに謙遜と服從を以てすることなりとす。彼れは實に耶蘇の大使徒と共に「凡の事は神を愛する者の爲めに悉く働きて益をあすあり」との告白をなす

べし。

奇蹟詳論終

明治廿四年八月廿六日印刷　筆記者兼發行者　本郷區元町二丁目六十六番地　三並良
同　同七月廿一日發行　印刷者　京橋區瀧山町六番地瀧關社　大西錬三郎
（正價拾五錢）
大賣捌所　築地二丁目　一二三舘
新橋出雲町　警醒社書店
銀座三丁目　十字屋

高橋五郎編著

創世記註疏

創世記註疏　第二冊自三章至五章　大定價金貳拾錢
第一冊舊約全書總論
創世記總論開闢二章　本價廿五錢

一二三舘發賣書籍目錄

創世記註疏

以上第一第二冊合本
大本百七十頁
定價金四十錢
郵税四錢

創世記殊ニ其最初ノ數章ハ古來宗教ト學問トガ必死ノ戰場ト爲ス所ニシテ其成敗ハ全局ノ勝負ニ係ル者タリ殊ニ我國ニ在テハ神佛二教者モ亦之ヲ研究シテ基督教ト雌雄ヲ決セントス是ヲ以テ教内教外ノ人均シク眞先ニ創世記ノ眞義ヲ研學セザル可ラズ此註解書ハ（此第一冊ハ天地開闢ノ次第第二冊ハ人類罪惡ニ墮落スル次第ヲ說ク者ナリトス）著者ガヒフライノ原本ニ就キ、傍ラ希臘羅馬ノ古譯本ヲ精讀シ英獨佛等ノ譯本注釋ヲ參考シテ公明正大ノ詳解ヲ下セル者ナリ、彼ノヒブライ語ハ如何ナル者ナルカ希臘羅馬ノ古譯ハ如何ナル性質ノ者ナルカヲ毫モ知ラズシテ漫ニ註釋ノ筆ヲ弄スル淺薄ノ比ニ非ズ右ノ中第一冊ハ已ニ一ケ月以内ニ盡ク發行人ノ手ヨリ出拂ヘリ、然レドモ時恰モ十二月ニ際セシヲ以テ一冊二冊トモニ印刷ニ附スル能ハザリシ、今此ニ刻成リタレバ兩書トモ一時ニ發賣ス、再板ノ分ハ前板ノ誤植ヲ訂正シ且世ニ行ナハル、聖書ノ誤謬ヲ聖書會社ト談合ノ上此ニ改正シタル所アリ謹テ右ノ次第ヲ江湖愛讀ノ諸彦ニ禀告ス願クハ諸君ノ賛成ヲ得テ此至難ノ大事業即チ（全聖書ノ詳註）ヲ完成セン事ヲ

植村正久君
田中達君合譯

## 基督のすがた

假製本 定價廿五錢
極美本 金廿五錢
郵税四錢

ジョンバンヤン氏著 佐藤喜峰先生譯

## 天路歷程

大和本製 三百五十頁
定價三十五錢
郵税二錢

此書ハ既ニ諸彦ノ知ラル、如ク有名ノ教書ニシテ道ニ從フ輩ノ信仰ノ冷熱浮沈ヲ示シ能ク情ヲ寫シタル良書ナリ

高橋五郎君序 熊野與君
稲垣信君閲 熊野雄七君合譯

## 約翰一二三書及猶太書註釋 全

百五十頁
定價金貳拾錢
郵税四錢

使徒約翰晩年ニ及ヒ福音、書札及ビ預言ノ書ヲ著シ或ハキリストノ「ペルソナ」ヲ證シ或ハ相愛ノ道ヲ説キ或ハ教會ノ興衰ヲ預言シ以テ基督教ノ眞理ヲ明カニセリ然シ其意蘊奥古來聖經學士ノ解釋ニ苦シム所ナリ且ツ使徒猶太ノ書モ稍前書ト同一ナリ故ニコレ等ノ書ヲ學バント欲スル者ハ宜シク歐米先輩ノ高説ヲ要スルヤ豈論ヲ俟タズ今幸ヒニ熊野先生本書ヲ譯シ予輩ニ示サル予輩謹テ之ヲ受ケ直チニ出版シ大方同學ノ兄姉ニ頒タント欲ス一讀ヲハラ給バ幸大也

致師石田祐安君編纂

## ○哥林多後書註釋 全

西洋綴美本 二百七十頁
定價金卅五錢
郵税共

本書は一致神學校石田祐安君勤學の旁ら同校書籍室に備へ有歐米諸大家中古今最も有名なる註疏數種を參考し方今日本聖教學者の爲適切なるものを編纂せられたるものなれば當時使徒パウロが哥林多の兄弟よ傳へし教理殊に貧き者を救濟すること等の義務を知るに至ては新約中獨り本書に詳なり然るに未だ其奥義を説明せしものなきは予輩の憂ふること茲に久し今幸ひに先生の編纂を辱ふし且假名交り文体にして漢字には盡くふりかなを用ひたれば童蒙初學の婦女子たりとも讀み易く實ま本書の深奥に達すればパウロの書札十三通の教理をも併せて熟知するを得るに至るの良書なり大方の諸愛姉兄方御一讀の上御披露あらんことを請ふ

元老院議官西周公序
博士ショセフ、タムソン君著 荒木卓爾君譯

## 米國政教論 全

二百五十四頁總金巾金文字入美本
金廿五錢非常廉價郵税共

○教法ニ關スル合衆國ノ憲法律令○奉教自由ノ制度ハ奉教認容ノ制度ヨリモ一層ニ寛裕ナルノ解○教法ニ關スル各州ノ憲法律令○教門ハ以テ罪惡謀反ノ匪徒ヲ庇蔭スル可ラサルノ論○蘇的力ノ奉教自由ノ説旨○蒙耳門宗徒支那移民及ヒ猶太教徒ノ事實○奉教自由ノ制度ハ以テ毫モ人民ノ其政府ニ對スル義務ヲ避免セシムル者ニ非サルノ辨○米國顚覆以前ノ政教ノ關係○費爾治尼亞ノ國教○新約克ノ教會○英國管治ノ下ニ在ル新約克ノ教會○奉教自由ノ制度○新英國ノ神教政治○富理蒙斯行客ノ遷徙地○國教ヲ奉セサル僧徒及ヒ別派特立ノ僧徒○原本教會○富理蒙新教會ノ律例及ヒ麻薩色朱土ノ神教政治○教會ト律例トノ關係○教會ノ財産ヲ保護スル方法○政府ノ教會ヲ待遇スル例法ノ要領ニ照準セル斷例○教會ヲ圏結スル方法○國税ヲ教區ノ費用ニ供ス可カラサルノ論○教會ノ設立及ヒ保存ノ方法○地方教會及ヒ邦國教會○奉教自由制度ノ實際ノ作用○附政中ノ教教中ノ政ト言ヘル諺語ノ解○奉教自由制度ニ因テ生スル教會ノ財産○政教ノ偶然ノ關係○盟誓○祭日○教導師及ヒ宗徒ノ忠義ノ

心ニ厚ク愛國ノ志ニ富ムノ例証○國家ト道德トノ關係○國家ト教育トノ關係○道理ト事實トノ關係○事實ト道理ト合致セサルノ解○道理ノ變通○米國人ノ品行ノ習癖○米國ノ民情ハ教王ノ威權ニ抗抵スルニ在ルノ論○結論○附錄○一則

高橋五郎閲　齋田巽著

## ●聖書汎論

全　二百頁　定價廿五錢（郵税四錢）

目次○聖書の記事の眞實なるを論ず　其一○聖書の記事の眞實あるを論ず　其二○聖書の文辭は古今同一なるを論ず○聖書は天啓の神典なるを論ず　其三○聖書は天啓の神典なるを論ず　其四○聖書は專ら眞道の據なるを論ず○聖書の記者は默示を受けたるを論ず○聖書中の數説を特論ず○聖書の救の勢力○聖書の奇跡を論ず○聖書の預言を論ず○聖書の必要を論ず以上○聖書の教の感化力○聖書と關する諸家の評論○聖書の必要を論ず以上

津田仙演述

## ●酒の害

定價三錢　郵税二錢

右は禁酒論中最も世上に稗益を與へし書あるを以て弊舗特別と右の正價を以て販賣す最も是迄は五錢なりしが是と減價を廣告す　但し一枚摺は品切に御座候

## ○英文聖書奇事問答

定價金五錢　郵税二錢

右ハ安息日學校必要ノ教科書ナリ。近世歐米各國ニ專ハラ行ルヽ最良新工夫ノ問答書ナリ。少年生ノ爲殊ニ注意ヲ加ヘタルモノナリ。

高橋五郎先生序

東京一致神學前教授蘇國マクラレン博士口述

SACRED GEOGRAPHY, AND ANTIQUITIES.

# 聖地故事全

三百廿頁　定價金四十錢

（神學校教科書）

聖地故事概略目次

○地理部ニハ猶太全國、約但河東各國、亞拉比阿半島及ビ埃及國等凡ソ聖經ニ關係アル諸大國ノ地理氣象○故事部ニハ家屋、衣服、家眷、農業、牧畜、學術、商業、政治、軍法、幕屋、牲犧、安息日、節筵、癩病、誓願、聖殿、律法、評論、辨駁、答辯、猶太國紳士淑女ノ肖像其他數葉ノ石版圖畫挿入

聖地故事とは何ぞや、聖經地理および猶太故事の謂あり、本書は曾てマクラレン教師が講述せられしを著者が筆記し、傍らバロウ氏の「セークレッド、ジョグラヒ、アンド、アンテクヰテ」を參酌し、更と又諸書に稽へ合せて、氏が書き著はされたる者にして、旁徵博引、紬繹精覈とは未だ云ふ能はずと雖も、杜撰附會の跡絶て無くして、聖書を學ふ者には無二の好伴侶と謂ふへし、殊と聖經學中本題と關しては未だ何たる著書も他と見ざる所なれば、此書の如きは實と破天荒の著と稱すべし、斯く聖經と係はる書の日に月に踵を接して顯はるゝは日本國民のために賀すべき事と信じ悅んで本書と序す

高橋五郎誌

日曜學校教科書

○聖地地圖大形　掛物　正價　金四十錢
折本　正價　金十八錢
袋入　正價　金十錢
寫眞　正價　金四錢

# ●基督教防衛論

麥州漁史譯

定價　上等　貳拾三錢
貳拾五錢

原名　How to Answer to Objections to Revealed Religion. By Mrs. E. J. Whately.

目次

●序論●舊約聖書に對する抗論○第一章紀事、年代其他に於ける撞着齟齬○第二章科學、博物學及び奇跡と稱すべき事よ關する難問○舊約聖書中の道德上の外見的難問●新約聖書よ對する抗論○第一章奇蹟○第二章四福音書の正眞純粹なる事●基督教の全體に對する抗論○第一章基督教の教義及び實行○第二章贖罪の教義よ關する抗論●附錄○聖書は日常の言語を以て記されゝ科學的言語を用ゐず○世界の創造○大洪水前人類の長壽○方舟中の動物○大洪水の廣袤○言語の淆亂○ヨンユアの奇跡○エリシヤ及び彼を嘲弄せし者○奇跡は信ずべからざるものよ非ず○古書證あり○超人的よして超理的よ非ず○異能及び休徵○奇跡を以て眞理を證す○例外なる異教徒の柔和○不信說の困難●以上

米國クラハサンズ、女教師著　高橋五郎譯

# 聖靈のはたらき　全

二百頁　金三十錢

東京數寄屋橋教會新榮教會及び西京同志社名古屋教會其他全國各地諸教會等至る所リバイバルの惠みを蒙らざるはなし然るにリバイバルの原因理由及び其はたらき方を說くものなし此時に當り本書を學ばずんば眞個のリバイバルと稱ふる得ず本書を研究し一日にして吾同胞三千餘万の兄弟を主の臺前に導き給はんことを

日本聖書ノ友藏版　小島春先生筆

# 道の雙紙

（一名心のかて）

全壹綴　定價三十五錢　郵稅六錢

此掛物は日本聖書の友事務所にて編せられたるものにして一綴り三十一枚あり一枚毎に聖書中の愛すべき語を大字にて記し日々一枚づゝ讀むべき工夫にあしたるものにて信者の方々が淸らかなる床の間に一綴りをつるして日々讀むべきものなり

## 陳言

扁幅は素と居常誦記すべきの文辭景畫を展示するの德を存すべし而て今や全く然らず平素觸目する所の者の人心を感化する其力太甚だ大なりと云はゝ扁幅を擇ふの事亦尤も切要なりと云ふべし英米の家皆な扁幅を用ひず只だ大抵聖語を記錄せる開冊を掲げ日々其一葉を後にして月中常に新句を巡誦するの便をなせり今茲に編綴製調する所の道の雙紙は即ち之に倣ふものにして亦たその英米に於けるが如き感化力を我國に行はれしめんと欲するが爲也蓋し開く家内の童兒ハ之に依りて聖語を誦し來

訪の客は之に依て聖語を知りその感化する所太甚だ大なりと云ふ此道の雙紙にして若し亦た然るを得は曾に編者の幸のみよあらざる也

聖書の友

北米合衆國メーリー、イー、クライン氏閲
日本　飯沼一雄氏編輯

## ●オルガン教科書

ORGAN INSTRUCTION ROOK

全一冊洋裝美本
定價金五十錢

泰西ノ樂曲漸ク吾邦ニ入リ學校ノ唱歌既ニ國中ニ普キク隨テ歐米ノ樂器モ之ニ伴フト雖モ能ク其器樂ヲ奏スルニ便ナル樂譜ハ猶外載ノ書ヲ仰カザルヲ得ズ而ノ外載ノ書ト雖モ大約洋琴(ピヤノ)ノ教科書ニメ能クオルガンヲ習熟スルノ益少シ先生嚮キニ文部省音樂取調掛ニ在リ後チ米國音樂女教師メーリー、イー、クライン氏ニ隨テ更ハ理論ト實枝トヲ修得シ此學校ヲ設立シ其術ヲ授クルニ際シ教科用書ノ欠乏ヲ見原本若干ヲ集メ雙手錬習、複音、錬習音階、和音、ヨリ樂曲ハ簡ニメ美易ニメ樂ムヘキ者ヲ撰ミ輯メテ一書ヲ成ス其書通体親切ヲ旨トシ十指運用ノ記號ハ一々漏スフナク極メテ順序ヲ尚ビ易ヨリ難ニ之キ英語ト邦語ヲ並記シテ外國教師モ之レヲ用フルニ便ナル等周密至ラザルナク且製本美麗室内ノ裝飾トモ爲スニ足ルノ好書ナリ

英國博士ヘンリー、ドラムモンド君著
東京英和學校教授本多庸一君校正
西館武雄君譯

## 二法一元論

原名靈界合性法

紙數百八十頁
價金三十錢

本書ハドラムモンド先生宇宙ノ大法ニヨリテ專ラ眞正ノ科學ト眞正ノ宗教トハ其歸趣ヲ同フスルノ所以ヲ説明シ從來世ノ學者ガ基督教ノ上ニ抱ケル謬見ヲ排掃シ所謂生命ノ教旨ハ科學的ノ眞理タルヲ述ヘタルモノ也大西ノ學者ガ皆ナ以テ近世ノ一大發明ト稱ス蓋シ其説ク處ヲ視ルニスペンサー及バジョトノ二氏ガ物理學若クハ生物學ヲ以テ社會學及政事學ニ應用シタルト同一ノ新事業ナレバナリ今代ノ基督教ハ先生ノ發明ニヨリテ今代ノ事情ニ適スル者トナレリ本書出版以來未タ數月ナラザルニ既ニ二十一版七万五千部ヲ公ニセリ以テ其人心ヲ動ルモノアルヲ知ル可シ世ノ宗教ニ志アル諸士此書ヲ繙ヒテ平常ノ感ヲ一掃セラレンコヲ

小崎弘道校閲
池本吉治抄譯

## 教會政治摘要

定價十五錢

會派一致組合両教會の合同は日本基督教會の一大事件にして其影響する所や大なりと云ふ可し而して其決着の期は既てよ眼前よ逼れり此際豈よ歐米諸洲諸教派の性質政治等を參考し深く講究する所あくして可ならんや、本書は宗教改革以來會衆教會(コングレゲーショナル)の歴史、其政治教理禮拜執務利益等を列記せるものよして會衆教會の性質政治を知るよ於て少補なくんばあらず今般弊社よ於て出版發賣す江湖諸君請ふ續々御注文あらんことを

米國ジョンロード著　一致神學校尾島眞治君譯

教法改革

# かるびん言行錄

定價拾八錢　切手代用不苦

曩ゴ教法改革家るーてる傳の著あり大ゴ大方の好評を博されたり今茲に尾島先生かるびん言行錄を反譯せられたり右二大家は改革家の先祖とも稱すべき人なり神學者たる者は必ず熟讀當時の景況及び兩家の言行を學ばずんばあるべからず幸ひゴ本書は假名交文體なれば初學者にも適當せり⊙かるびん派とて世に其名高き最も重なるものは彼の預定說ゴて實に聖經中殊ゴ意味深長にして主キリストの教理を全く教ゆるものなり神學上美妙高尙なるの教理は獨此一點のみなれば必ず其奧義を極め豫め主の定め給ひし天の幸福を得給はんとを祈る

松村介石君編纂

誠必發表

# 奇談集全

定價十錢　郵稅二錢

悔改結果

世ゴ聖教書類多しと雖ども未だ今日まで神の奇跡の證なる生きたる祈禱の應驗なる驚くべく喜ぶべく泣くべく笑ふべくして不思議ゴも亦た面白き奇談實話を集め來りて一書を成したるものあるを見ず獨り今此書物あるのみ諸君試ゴ此書を開て一讀あれ歐米諸國凡そ基督教感化の國に於て惡人、放蕩息子、飲酒家、盜賊、蠻民等が不思議にも其誠心を發輝し其悔改の菓を結び天道ゴ從ひ人道に歸り良民となり善人となり慈悲の親となり愛心の夫となり從順の子となり謙遜の友となりたる美談奇話ゴて滿るを知らん乃ち此書說教講義其他傳道の種として安息日學校小供教草の種として未信者ゴ生きたる神を示す爲として信者の鈍き心を警醒せしむる爲として及び此奇談中ゴ在る如き同事情の人に讀しめて同結果を求むる爲として適切必讀の書なり

# 諸大家演說第一集

百六十頁　定價十錢

序文　小崎弘道君
序文　木村熊二君
井深梶之助君
平岩恒保君
加藤弘之君
小方仙助君
獨逸スピンヲル君
米國コルレル君
德富猪一郎君
米國フィルド君
米國ビーチー君
英國ホワイト君
米國ムーデー君
元良勇治郎君
高橋五郎君
英國イーブス君

霧生逸作譯

# 靈魂篇

定價拾三錢

本書は吾人の靈魂ゴ就て存在不滅等を數多の適例を擧て詳論し疑問を設て答論を付したる者の俗文にて最讀易く譯したれば如何なる人ゴても了解ゴ苦となし部數限あり速ゴ御購讀ならんとを謹告す

英國エー、エム、ターカル氏著
英國宣教師ダブリユー、ジエ、ホワイト氏譯

# 博愛眞語

紙數二百頁　定價二十錢

本書ハ第一基督信徒ノ一致ヲ論ジ第二基督教ノ教理ヲ辨ジタル良書ニシテ實ニ博愛眞語ノ名ニソムカザル近來無比ノ著述ナリ請フ大方ノ諸彥一讀シテ其良書タルヲ了解アランヿヲ

栗屋關一先生譯述

# 齊家秘訣 禁酒美談 全

定價七錢紙數六十頁全國無遞送料切手代用不苦

○汝の子に衣服を給與へよ○禁酒の人は寒熱も之を害する能はず○アンドルース人に禁酒を說勸めし事○醫學師とありたる石炭夫の話○帽匠の話○囚徒よ禁酒家なし○代言人の決心○摸範の勢力○牧師の功勞○我れ何ぞ酒を量るを學ばん○子女も足下の幸福を祈れり○疑念は晴れたり○水夫の龜鑑○心に印象して忘れがたし○十五頭の牛を呑む○貧民學校よ禁酒家の子なし○母の悲歎○酒を禁じて貯蓄をなす○ジョン、ブライトの演說○子供に及を授く○ブラウンとスミスの話○羽のなき鵞鳥○ジョン、ウエスレーの言○旅行者の經驗○宣教師の經驗○貿易上の關係如何○始めを愼しまざる可からず○幼時の嗜好は急に廢し難し

人間眞正ノ幸福ヲ奪ヒ社會ニ害毒ヲ流スモノ未ダ飲酒ノ惡弊ヨリ甚シキハナシ心アル者常ニ慨歎憂慮シテ措カザル所也本書ハ歐米諸國ニ於テ飲酒ヲ禁ジ或ハ家ヲ興シ或ハ名ヲ揚ゲ惡漢ハ變ジテ良民トナリ惰夫ハ化シテ勤勉ノ士ト爲リシガ如キ事實ト飲酒ヨリ生ズル惡結果トヲ擧ゲテ一讀其禍福利害ノアル所ヲ知ラシムルノ良書也江湖ノ諸彥幸ニ購讀シ玉ハンヿヲ

高橋五郎先生著

# 印度史 全

百三十二頁　定價廿五錢　郵稅四錢

本書ハ印度（天竺）の歷史にして地理を始として古今の政体、風俗、貿易、理學、宗教等の變遷を簡明よ記せる者なれば印度國古今の事情をしらんとする諸君ハ讀べきの良書なり

英國孤兒院長ジョージ、ミューラー君著　奥學浩君譯

# 基督教四大要問 全

定價金六錢　郵稅二錢

身よ一錢の貯財なく只信仰より起る熱心の祈禱を以て數万の孤兒を養育し拾万二千の人を基督の人民となしたるものは英國孤兒院長ジョージ、ミューラー君其人なり此書ハ君が聖書の語を以て愛蘭貴女よ答へたる四個の問答を最も平易よ譯したるものなり信者は之に由て其信仰を篤め不信者は之を見て福音の闡明なる救道たるを知らん今や書成る大方の諸君速かよ一閱せよ

高橋五郎君校閱

# 提摩太前書註釋 全

一百五十一頁　定價廿五錢　郵稅四錢

熱心ナル使徒パウロガエペソ教會ノ管理者非凡ナル信仰ト才智トヲ有セルテモテヲ訓戒奬勵シ邪教異端ヲ排斥シ又ハ教會政治ノ方法ヲ知ラサン爲メ論記シテ送リシ前書ノ註釋ニシテ信徒ガ研究シ教會ニ對スル義務ヲ知ルニハ必要ノ書ナリ

米國博士ジョセフ、クック氏演說　日本植村正久君筆記

# 東京演說 全

一百十二頁　定價十五錢　郵稅二錢

嘗テ米國第一流ノ人物トシテ其名聲ヲ博シタル博士クック氏ガ先年世界歷遊ノ途次

我ガ日本國ニ立寄リ雄辨ト熱心ヲ以テ東京青年會ノ請ニ應ジ基督教ノ眞理ヲ說明セルヲ筆記セシモノニシテ一讀氏ガ論議ノ世界ニ榮譽ヲ得ルノ所以ヲ知ルベシ

英國博士ペレグリン著　日本河野政喜譯

## ●男子女子　全

五十八頁　定價十錢　郵稅二錢

本書ハ耶蘇教主義ニヨリテ社會ノ男子女子ガ上帝ニ對シ幷ニ國家ニ對シ盡スベキ義務ヲ說キ母タルモノヽ役目ヲ論シ女子ノ教育ニ及ビ紳士令嬢ノ事ヲ述ブルノ書ナレバ男子女子ニ論ナク老壯ヲ問ハズ必ズ讀ミテ以テ其世ニ對スルノ責任ヲ全フセラレンコヲ伏テ希フ

米國神學博士フルベッキ君述　日本　高橋五郎君譯

## ●基督教不廢物論　全

三十頁　定價四錢　郵稅二錢

人事榮枯ありとの思推よりして遂ゝ基督教も二千年の後たる今日ゝ於ては廢物たるべしとの臆說を吐くものあるより博士フルベッキ君熱心辯論して不廢物ならざるを證せり乞ふ江湖の諸君一讀基督教の廢物ならざるを知り玉へ

高橋五郎君述

## ●女權眞說　全

五十七頁　定價十錢　郵稅二錢

時勢高橋先生を驅つて女權論を草せしむ卷中載する所男女の關係より男女の優劣を論し又別ゝ道德宗教職業及び罪惡の關係を說きしものなり希くは女權論者ゝ讀て以て其眞理を覺れ女壯士ゝ讀て以て誤を正せ卑屈女子ゝ讀て以て女權論者となれ

英國神學博士ラウリンソン著

## ●舊約史論

八十頁　定價十錢　郵稅四錢

本書ハ博士ラウリンソン氏ガ天地創造ノ事洪水ノ事人種離散ノ事ヨリシテ舊約聖書ニ載スル所ノ事柄ヲ歷史上ニ於テ討究シ之ガ解釋ヲ與ヘタルモノナレバ舊約聖書ヲ研究セント欲ス君ハ必要ノ書ナリ

高橋五郎君著

## ●教育要論　全

八十八頁　定價十錢　郵稅二錢

高橋五郎君ガ某地ニ於テ議員教員諸氏ノ書ニ應ジ演說セラレシヲ乞フテ以テ出シモノ後ノ無稱不急ノ空談ト異ナリ今日教育說ノ盛ナル日ニ於テ要スル緊間題ヲ簡明ニ述セシモノナレバ世ノ教育ニ志アル諸君ハ試ニ一卷ヲ繙ケ

高橋五郎君著

## ●類人學班

一百七頁　定價十五錢　郵稅四錢

高橋先生ガ特意ノ筆ヲ執リ人類ト動物トノ區別ヨリシテ歩ヲ進メ原人論ノ人ノ人ノ及ブ所ニ易ニシテ鄭重ナリ以テ人類學ノ一班ヲ悟ラント欲スル諸君ニハ

古屋出版

## ●基督教聖歌集

全　（ホ形）　定價七錢　郵稅二錢

本書ハ信徒ニ適スル價額ハ聖歌集ニ美本ナルハ本書ノ特意トする所ゝして從來集ニ異ナル所ナリ

## ●カード及教の種　枚四　錢

郵稅三十枚貳錢

## 舶來最上カード大花束

● 全[illegible]上全中草花[illegible]種　一枚二錢五厘　五十枚貳錢
● 全　全[illegible]花[illegible]種　一枚二錢　全　貳錢
● 全中品　全大薔薇花四種　十枚八錢　廿五枚貳錢
● 全　全　全景色遊戲廿五種　百枚三十五錢　百枚四錢
● 全　全　全聖語入十二種　百枚五十錢　百枚四錢
● 和製彩色入教の札　大草花　十枚五錢　八十枚貳錢
● 全　全　全　中全　百枚廿五錢　百枚貳錢
● 全　全　全　小全　百枚十二錢　二百枚貳錢
● 全彩色ナシ全　全　百枚五錢　二百枚貳錢
● 全日本畫カード金縁　大　一枚一十錢　二十枚貳錢
● 全　全　小　一枚二錢　六十枚二錢
● 舶來油畫繪紙　小供遊戲、美人、草花、景色等　繪數ハ一枚ニ拾ヨリ小ハ九百六十圖アリ
横二尺五寸　竪二尺　一枚　十八錢　五十錢迄　(郵稅二錢)宛

英國宣教師蘇淮陰氏著苅谷寅之助先生譯

## ●ゴルドン將軍傳

（肖像入）

全紙數百九十八頁
正價十五錢
郵税四錢

其國ノ確手タル統御權ヲ回復シ麻治ト戰ヒ戊兵ヲ援助シ其他成ス可キヲケノ事ヲナシ蘇丹ノ塗炭ヲ救ヒ得ル丈々敎ハン爲メニ何故支那戈登ニ充分ノ權力ヲ與ヘテ之ヲ加爾芝ニ派遣セザルヤ氏ガ此事業ニ適セル高妙ノ性質ヲ有スルハ今更余輩ノ喋々ヲ要セズシテ社會公衆ノ普ク知レル所ナリ誰カ今日斯人ヲ要セズト云ハン天眞自ラ御衆ノオ略アリテ且ツ最モ能ク蘇丹ノ地理人情ニ通達セル今日又氏ノ如キ者アルカ何故ニ氏ニ充分ノ權力ヲ委ノ之ヲ遣ハシ以テ此ニ其全力ヲ盡サシメザルヤ蓋シ氏ト雖モ雙手ヲ以テ此紛亂ヲ鎭定セン丁ハ決シテ能ハサル所ナリト雖モ雙手ヲ以テセバ則チ事ヲ成スヲ得ルヤ明ケシ而シテ果シテ之ヲ氏ニ任セント欲セバ則チ遠カニセザル可カラス云々

（倫敦一新聞紙ノ評論）

米國プリンストン大學敎頭マッコジ博士口述

## ●須氏哲學評論

定價十錢
郵税共


第一章　須氏の諸先輩……
第二章　須氏立論の方法……
第三章　須氏「メタヒジック」……
第四章　須氏不可思議論……
第五章　須氏が進化説……

安息日用教ノ札

●新撰教の札 百枚一包 價五錢

●錦繪教の札 百枚一包 價十錢

●十誡教の札 百枚一包 價廿五錢

●大形教の札 美麗花形同 價三十五錢

●中形教の札 同 同 價廿五錢

●舶來カード 一枚五厘ヨリ三錢迄

安息日學校用書籍

●童蒙道の教 田村直臣君著 價五錢

●奇談集 松村介石君編著 全 同十錢

●百の花 山本靜也君著 全 同十五錢

●耶蘇教略問答 同三錢

●初學問答 同 三錢

新刊書預告

教師三並良君譯

●奇蹟詳論● 全 印刷中 定價十二錢

インスピレーション説と奇蹟説ハヲルソトックス教義ノ本城となす所なりと雖も猶ほ唇氣樓の如し然るに憐むへし學理進歩の今日尚ほ之れを保守して其精神的宗教の本旨に之を去らさるもの此々皆な是れ之眞理紙上已に兩論ヲ掲ゲて世の注意を喚起せり今ヤシュシーデル氏更ニ奇蹟のことを詳論したる一冊子を著し奇蹟迷信の夢を破り去りて正覺を得せしめんとす苟も眞理を重する者い一讀せざるを得ず

●心の鏡 全 印刷中 定價十錢 繪入

68
2
61

# 謹告

一弊店ハ内外各國ノ基督教ニ關スル一切ノ書籍ヲ販賣仕候且又内外ノ各科書籍モ多少ニ係ラズ御注文ニ應シ精々低廉ニ仕切リ取寄セ發送申ベク候

一洋書御注文ノ節ハ成ベク片假名又ハ歐文ニテ書籍ノ原名御申越可被下候

一書籍御注文ノ節ハ總テ前金御送附被下度且又此ノ書籍目錄記載ノ中革製聖書讃美歌ヲ除クノ外ハ運送費ハ弊店ニテ支辨可仕候

但シ金壹圓以下ハ郵税ヲ要セサル書籍ノ外ハ運送費ヲ申受候

一各地賣捌取次所諸君ヘハ此等ノ稟告外特別ノ減額仕ルベク候

一御送金之節ハ銀行爲替又ハ郵便爲替等其他御便利ヲ以テ御送附可被下候　但シ郵便爲替ハ當地「銀坐」郵便爲替取扱所ニテ請取ベキ樣御取組被下度候

一郵便切手ヲ以テ送金御代用ノ節ハ一割増ニテ御送附可被下候

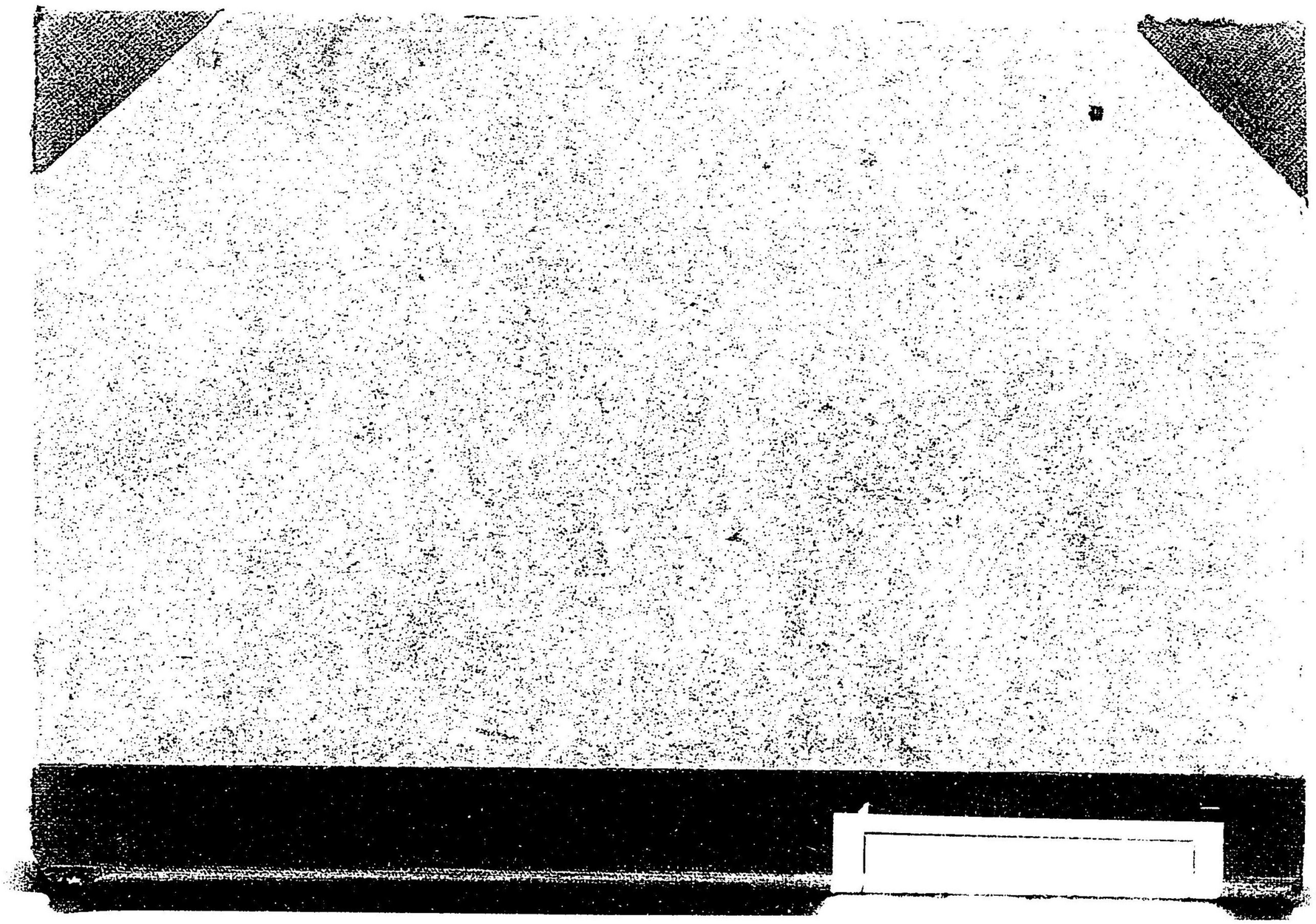
一荷造ノ儀ハ精々注意堅固ニ仕候得共萬一途中破損紛失等ノ節ハ積問屋或ハ飛脚屋ヨリ辨償致シ候外弊店ニテハ負擔不仕候

一書籍遞送ノ際ハ必ス案内狀差出シ可申尚ホ御注文ノ品々切レ又ハ調達ノ爲メ遲延可致節ハ理由書差出シ可申候

一東京府下ニ限リ御注文次第迅速持參可仕候

一弊店ヘ御書狀又ハ電信御遣ノ節ハ御地名番地御姓名等明瞭ニ御認メ被下度且ツ必ス（東京々橋區築地二丁目二十二番地一二三館）ト御認メ被下度候

東京市京橋區築地二丁目二十二番地

一二三館

19
89